

全 博 協 会 報

58

令和2年度の活動報告

全国大学博物館学講座協議会

目 次

はじめに

COVID-19パンデミックにおける

学芸員養成課程授業実施に関するアンケート調査の報告……………	1
令和2年度 常任委員会・全国委員会 ……………	51
令和2年度 総会 ……………	54
令和2年 東日本部会 ……………	70
令和2年 西日本部会 ……………	81
全博協加盟大学一覧……………	82
東日本部会加盟大学一覧……………	86
西日本部会加盟大学一覧……………	88
全国大学博物館学講座協議会規約 等 ……………	89
全国大学博物館学講座協議会東日本部会規約 等 ……………	91
全国大学博物館学講座協議会西日本部会規約 等 ……………	94

はじめに

令和2年度の全博協会報をお届けいたします。各大学におかれましては、困惑のなかでの模索と挑戦の1年だったのではないかと拝察いたします。

令和2年4月より、全国大学博物館学講座協議会の委員長大学を、國學院大學から明治大学が引き継ぐこととなりました。永く本協議会を牽引された國學院大學の青木豊先生には及ぶべくもありませんが、会の取りまとめに精一杯尽くしたいと考えております。加盟大学の皆さまには、何卒よろしくお願い申し上げます。

思いもよらなかったCOVID-19パンデミックにより、本会の活動も大きな影響を受けました。令和2年6月に岡山理科大学で予定していた全国大会は開催が不可能となり、総会だけを書面審議で実施せざるを得ませんでした。全国大会の準備を進められていた徳澤啓一教授をはじめとする岡山理科大学の教職員の方々には、ご迷惑をおかけすることとなりましたこととお詫び申し上げます。これに先立つ5月の全国委員会も明治大学での開催を計画していましたが、書面審議での対応となりました。緊急事態宣言下での書面審議に向けた準備は作業上の制約が多く、迅速に進める体制を整えられなかったことを反省点と考えています。また、秋には参集できるであろうと希望をもっていた東日本と西日本の各部会大会も、開催がかなわなかったのはとても残念なことでした。

本協議会の活動もさることながら、COVID-19は大学での学芸員養成教育にも大きな影響をもたらすこととなりました。講義や実習の授業では、これまで培ってきた方法やスタイルだけでなく、その基本的な考え方と姿勢に至るまで再構築を迫られる事態となり、これはまだしばらく続く情勢にあります。そこで、各大学における実践や取り組み等を情報共有して、次年度以降においても、充実した学芸員養成教育を学生に提供できるようにすることを主な目的に、加盟大学へのアンケート調査を令和3年1月から2月の間に実施しました。学期末のお忙しい時期にもかかわらず95大学の教職員の方々から回答をいただき、ご協力に心より感謝申し上げます。その内容を本誌に報告いたしましたが、学生教育と教務事務におけるそれぞれの大学でのご苦心とともに、創意工夫の試みや意欲的な取り組みの様子を知ることができます。各大学の今後の実践において、有益な情報やヒントを引き出せるものとなりました。

COVID-19を見据えた対応は、新年度も継続させていくことが必要なようです。全国委員会と全国大会の実施形態や内容は現在検討中ですが、今年度の経験を踏まえて、学芸員養成教育に少しでも有益な活動となるよう工夫をしたいと考えております。加盟大学の皆さまには引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年2月22日

全国大学博物館学講座協議会
委員長大学代表 駒見 和夫

COVID-19パンデミックにおける 学芸員養成課程授業実施に関するアンケート調査の報告

COVID-19パンデミックにおいて、各大学では養成教育の対応に苦心されていることと推察され、この状況は次年度も続くことが懸念されている。そこで、各大学における実践や取り組み等を共有して、COVID-19禍においても円滑で充実した学芸員養成教育と学習環境を学生に提供できるようにすることと、将来に同様の事態が生じた際に参考となるように全博協として記録に残すことを目的に、アンケート調査を実施した。

調査は2021年1月8日から2月10日に実施し、全博協加盟の174大学に依頼して、95大学の162人から回答が得られた。

アンケート調査の質問は以下の1～11である（1～6は授業担当教員への質問、7～10は教務事務担当者への質問、11は全員への質問）。

1. 講義科目（博物館概論等の「博物館に関する科目」）において、工夫した点や新たな試みを取り入れた科目を選んでください（複数回答可）。
生涯学習概論、博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論、博物館情報・メディア論
2. 上記の講義科目において、工夫した点や新たな試みがあれば記してください。
*科目名、期区分、授業方法（リモート・対面・併用など）を示し、そのうえで工夫点や新たに試みた実践などをご記入ください。
3. 実習科目（学内実習授業・見学実習・館園実習）についてお尋ねします。
【学内実習授業】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。その方法などをご記入ください。
4. 【見学実習】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。実施の有無と、できなかった場合は対応策などもご記入ください。
5. 【館園実習】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。館園実習ができなかった学生の有無と、できなかった学生への対応策などもご記入ください。
6. 授業実施において、他に苦慮したことやご意見等があれば記してください。
7. 講義科目（博物館概論などの「博物館に関する科目」）の扱いや運営において、苦慮した点や新たに試みたこと等があれば記してください。
8. 【学内実習授業】での感染防止対策について、ご記入ください。
9. 【館園実習】および【見学実習】について、感染防止対策や、学外への学生送出しについての学内手続き等について、ご記入ください。
10. 教務事務において、他に苦慮したことやご意見等があれば記してください。
11. ご所属の大学名を教えてください。

各設問の回答は以下のとおりである。設問1の回答は、各科目に対する選択者の数を示した。設問2～10は各回答をそのままの文章で記載し、回答者の所属大学名をそれぞれに記した。なお、各設問の回答は、所属大学名の五十音順で掲載してある。

1. 講義科目（博物館概論等の「博物館に関する科目」）において、工夫した点や新たな試みを取り入れた科目を選んでください（複数回答可）。
生涯学習概論：24、博物館概論：47、博物館経営論：40、博物館資料論：47、博物館資料保存論：41、博物館展示論：43、博物館教育論：34、博物館情報・メディア論：37

2. 上記の講義科目において、工夫した点や新たな試みがあれば記してください。 *科目名、期区分、授業方法（リモート・対面・併用など）を示し、そのうえで工夫点や新たに試みた実践などをご記入ください。	
博物館概論、教育論 春学期 春学期は当初オンデマンドで、6月からオンラインに移行したため、オンデマンドの時期には画像も多用して分かりやすい解説を心掛けた。 博物館情報・メディア論、春学期（リモート） コロナ禍で博物館はどのような発信を行っているのかについて、授業内でもインターネット上で博物館のHPなどを紹介しながら授業を進めた。 博物館経営論、秋学期（併用） 秋に入り、コロナ禍で博物館の対応も具体的に見られるようになってきたため、YouTubeに挙げられているニュースや新聞上の情報などを提示しながら議論を進めた。	愛知学院大学
博物館概論（1年前期）…元来が対面のみの開講であるが、コロナ禍で、リモート授業も並行しておこなうこととした。両者の差はまだ表れていないが、対面型授業を受けた者は、この方が臨場感があってよい、という声を上げていた。 核物館経営論（1年後期）…同上。 生涯学習概論（2年前期、後期）…同上。 博物館展示論（2年前期）…対面のみの開講であるが、すべてリモート授業をおこなった。 博物館教育論（2年後期）…同上。 博物館資料保存論（2年後期）…対面型授業とリモート授業の2通りの授業方法で、学生たちに選択させた。	愛知淑徳大学
授業方法：リモート。できるだけ具体的な例を示すようにした。	江戸川大学
本学では、年間を通して原則オンライン授業となった。学芸員課程では、座学すべての科目がZOOMを使用したリアルタイム形式での授業実施となった。教員によって取り組みは異なるが、パワーポイントに図や写真を増やして理解を深める工夫をしたり、ZOOM機能を利用したグループ討議やチャットによる質疑応答なども取り入れている。	桜美林大学
上記の講義科目の大半が学生ポータルを用いたリモートとZoomを原則にし、博物館資料保存論と博物館情報・メディア論は対面を併用した。	大阪芸術大学
博物館資料保存論、後期、リモート 対面形式の授業が実施できなかったため、映像資料の提示などは困難でしたが、教員自身が資料の扱い方を実演する映像を録画して配信することにより対応しました。	大阪大学
今年から担当しましたので、改良点を明確にすることはできません。ただすべてオンデマンド方式となりましたので、できる限り画像を増やし、文字過多にならないよう気を付けました。またインターネット上に提示されている3D画像をチェックできるようQRコードを張り付ける（管理者許可済）ことも試みました。	大阪大谷大学
後期：博物館展示論 対面 後期：博物館教育論 対面	大谷大学
上記科目において前期4回、後期6回のリモート授業を行い、その際には学内の講義案内システムを利用し、講義資料の送付や学生からの課題提出を行った。	岡山商科大学
博物館概論（後期：リモート）、博物館資料論（後期：併用）、博物館経営論（前期：リモート）、博物館情報・メディア論（後期：リモート） Zoomによるオンライン配信の形で授業を行った。	お茶の水女子大学
感染状況にあわせて、リモートのみ、リモートと対面の組み合わせによって、講義を展開。完全な対面はなし。	岡山理科大学

<p>博物館概論：Zoomを活用したリアルタイム遠隔授業と教材提示の併用、教材提示にあたっては音声解説を付けた。</p> <p>博物館教育論：オンデマンド配信</p> <p>※いずれも春学期に行った授業</p>	<p>関西大学</p>
<p>「博物館概論」・秋学期・オンライン授業（オンデマンド型）</p> <p>工夫した点：現在直面しているパンデミックの問題に対して、現在、博物館や美術館がどのような方法で対処しているのかHP上で調べさせ、自らも対処方法を考えてもらった。</p>	<p>関西学院大学</p>
<p>前期「生涯学習概論」「博物館概論」…オンラインで同時双方向授業を行った。対面できない分、LMSを活用し、レポート提出、添削を繰り返し行った。</p> <p>前期「博物館経営論」後期「博物館情報・メディア論」…オンラインで同時双方向授業を行った。学生に意見を述べさせることを重視した。</p> <p>前期「博物館資料論」…オンラインで同時双方向受領を行った。通常は受講者全員で博物館見学を行うが、2020年度は各自で見学させ、レポートさせた。</p>	<p>北里大学</p>
<p>生涯学習概論 前期</p> <p>4～5月リモート（動画配信）</p> <p>6月～7月 対面とリモートの併用</p> <p>同時配信ではなく動画配信とすることで受講生の利便性、繰り返し視聴による学習効果を狙った。</p> <p>生涯学習概論 後期</p> <p>9～10月対面</p> <p>11月～ 対面とリモート（同時配信）</p> <p>後期は対面講義を基本としたが、一部受講生からリモートの希望が出たことから、対面授業を同時配信する形で実施。</p> <p>博物館概論 前期</p> <p>4～5月リモート（zoom）</p> <p>6月～7月 対面とリモート（動画配信）の併用</p> <p>6月以降は、大学が閉鎖を解いていたが、公共交通機関の利用が必要な学生等、通学に不安を感じている学生対応として、動画配信を行った。動画配信は、対面授業に参加した学生からも視聴希望が出され、学習機会の増加につながった。</p> <p>博物館経営論 後期</p> <p>全てリモート・対面・併用</p> <p>開館しているところもあったが、前期と同様に訪問が困難になり、実践的な理解のため、博物館ウェブサイトの活用が多くなった。</p> <p>博物館資料論 前期</p> <p>4～5月：リモート（zoom）</p> <p>6～7月：対面、リモート（zoom）併用</p> <p>PowerPointを作成するようにして板書を減らし、動画資料を併用した。</p> <p>博物館資料保存論 後期</p> <p>9～1月：対面、リモート（zoom）併用</p> <p>一部の学生には動画配信をおこなった。PowerPointを作成するようにして板書を減らし、動画資料を併用した。</p> <p>博物館教育論 後期</p> <p>対面とリモート（zoom）</p> <p>当初からリモート希望の受講生があったため、講義を同時配信。学内のグループウェアを使って資料の配付、課題の提出を実施。提出課題に返信する形で、双方向的な指導を行った。また、板書をすべてパワーポイントのスライドに置き換えた。</p> <p>博物館展示論 前期</p> <p>4、5月はリモート（zoom） 6、7月はリモート（zoom）・対面併用</p> <p>博物館ロックダウンにより訪問できないため、ウェブサイト調査や、継続的にデジタルアーカイブを提供している館を、ネットで活用して学修をすすめた。</p> <p>博物館情報・メディア論 後期</p> <p>対面を主とし、欠席（参加できない）学生対象に動画配信（共有サイト）を行った。</p>	<p>岐阜女子大学</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・博物館経営論 座席指定・ソーシャルディスタンス、大学に来られない学生のためにオンデマンド授業の配信 ・博物館資料論（前期科目）において、対面授業が難しいことをうけて、博物館学講座担当責任者と相談のうえ、本大学が運営する遠隔学習ツールであるKT-Noteを使って、リモート授業をおこなうこととした。この授業の内容に関しては、例年授業計画を一定のプログラム化して、それに従って授業を進めてきたが、毎回の授業資料や時事的話題資料などの提示形式は千差万別であった。しかし、今回は最初から最後まで、遠隔学習ツールであるKT-Noteを使って授業をおこなうことになったため、以下のように手を加えたり工夫したりした。 <ol style="list-style-type: none"> ①履修学生と教員の橋渡しをするのは、授業資料であるため、資料規格化を目指して1回分の授業資料につき、A4判3～4頁に統一し、一定の基本版面内に、その日の授業の課題と、そこに至る道筋を、できるだけわかりやすく、レイアウトを工夫して資料を作成した。もちろん、参考文献とその書籍の写真、基本的博物館の紹介などは、明確に提示した。 ②資料の内容を確的に語り、その内実を保証するのは、文字による文章説明であるが、対面授業でないため、履修生の理解を促すことができるように特に念入りに図・写真・表を挿入して内容を徹底的に視覚化した。結果として、カラー写真資料を多用することとなった。 ③本授業では、現役の学芸員による講演会を開催して、学芸員の一日の実際の仕事（館務）とは、どんなものか紹介してもらってきた。しかし、今回、講演会を開催できなくなったので、やむなく2019年度の講演会で記録した私の詳細なメモを文字化して、それを講演者に無償で校訂してもらい、さらに内容を整理し、見出し・写真・図を加えてレイアウトした授業資料（パンフレット）を作成した。時間と手間を要したが、その結果、学芸員という仕事にたずさわる人々に必要な要件に関して、博物館を外からだけ見ているために、学術研究能力・公的資格くらいしか思いつかなかった学生にも、学芸員の仕事とは、ルーティンの雑務の遂行・全体的運営への主体的参加・新しい研究展示課題の実践的追究などの、気力に満ちた社会人としての積極的活動が中心にならなければならないことが具体的に理解できたと、履修生が提出したレポートを読むかぎり感じられた。この試みは、例年の講演会と同様に、あるいはそれ以上に、教育的効果を生み出したと考える。 ④KT-Noteの機能を利用して、毎回の授業に対して、設問（感想文）またはレポートを課して、授業に対する履修生の理解度の測定をおこない、次の授業の参考にした。 ④授業に関する質問については、学内の教職員に提供されているメールシステムActive-mailを使って、疑問点を自由に提出するよう促したが、あまり質問はなかった。 ・博物館展示論 座席指定・ソーシャルディスタンス、ソーシャルディスタンススペースを利用した展示会の開催 ・博物館情報・メディア論 座席指定・ソーシャルディスタンス 	<p>京都橘大学</p>
<p>いずれの科目においても動画を作成した。箱の紐かけや掛け軸の掛け方、道具の説明などの動画を学生に撮影・作成させ、完成したものを全体でも共有。また、本学むすびわざ館ギャラリーでの展示取り組みも画像にして配布した。</p>	<p>京都産業大学</p>
<p>下記の前期開講科目については、遠隔授業用のシステムを導入してリモートにて実施した。 生涯学習概論、博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館情報・メディア論</p>	<p>京都精華大学</p>
<p>博物館情報・メディア論 秋学期 リモート Googleアートプロジェクトを利用してヴァーチャルな美術鑑賞を体験させる授業を取り入れ、その成果をレポートとして提出させた。</p>	<p>京都文教大学</p>
<p>パワーポイントを全面的に作り直した。新型コロナに関するリアルタイムなミュージアムの報告を交えた講義を行った。学生からのコメントを参照しながら授業を構築した。口頭での「語りかけ」を心がけた。リモートならではのインターネットを利用したアクティブラーニングを行った。</p>	<p>国立音楽大学</p>
<p>リモート形式ですべての講義を行いました。従来型の資料配布だけでなく、パワーポイントや動画資料、また所属が音楽大学という特性も踏まえて音源も交え、学生たちの興味関心が持続できるよう努めました。</p>	

<p>「博物館概論」「博物館展示論」前期 授業方法はリモート、パワーポイントを使用。事例を画像で示す。設問と解説を分ける。1枚のスライドに画像1枚と説明。文字テキストを300字以内。1枚のスライドを音読して1分以内として、1回の枚数を80～120枚にして、ビジュアル中心の教材を作成。画像は、自分で撮影したもの、広報などで使用。URLを表記して、参照するHP、画像を示す。個別に質疑応答のメールでやりとりと、レポートにコメントをつける。対話型よりも、カラー画像を提供して、何度も見れる点を活かす。</p>	
<p>前期：博物館概論・博物館教育論、後期：博物館資料保存論・博物館情報メディア論。前期科目は前半リモートで後半から対面（博物館教育論のみ一部併用）、後期科目は前半対面で後半リモートとなった。博物館教育論ではgooglejamboardやmiroといったオンラインホワイトボードを活用したディスカッションが効果を挙げた。また同科目では併用時に資料をカメラで撮影しながらオンライン上映し、対面参加とオンライン参加の受講生（後者についてはプロジェクターで教室に投影した）が同時に意見を述べる事を可能とした。資料保存論は機器や資料を操作する部分が多いので、冬季に感染が拡大する可能性を予測し、早いうちにハンドリング部分を行うようにした。博物館情報メディア論はむしろリモートでの授業が当たり前になった事によって、受講生が様々なメディアに積極的にチャレンジするようになった。本学ではこの博物館情報メディア論で映像制作を行っているが、例年より積極的になっている。</p>	九州保健福祉大学
<p>〈博物館展示論（前期、リモート）〉 本授業はすべてリモートで実施することとなったため、展示グラフィックに関する単元においては、学生に本学宮島学センターのデジタルアーカイブサイトに掲載している古文書・錦絵・絵葉書等を閲覧させ、キャプション等の作成体験を実施した。全国大学博物館学講座協議会西日本部会令和元年度研究助成「厳島神社大鳥居の保存修理事業に関連した博物館教育ツールの開発と実践」（令和元年10月1日～令和2年9月30日）に取り組んでいたため、「博物館展示論」で学生が作成したキャプション等を活用して教育ツールを開発し（パンフレット・紙細工）、宮島歴史民俗資料館の企画展示「宮島の大鳥居～令和の保存修理～」(令和2年10月6日～12月13日)の特別企画として発表した。</p> <p>〈博物館資料保存論（後期、リモート／一部対面）〉 劣化の要因「振動・衝撃」、例年は対面授業において資料の梱包体験をおこなっているが、今年度はやむを得ずリアルタイム授業を実施した。本学が所蔵する資料を近隣の博物館に貸し出す機会があったため、学芸員と美術品輸送業者の協力を得て、作業の様子を写真撮影し、教材とした。</p>	県立広島大学
<p>「博物館教育論」前期（前半オンライン、後半対面） オンライン環境の整備のため、授業開始時期が約3週間後ろ倒しとなった。その間、コロナ禍の状況下で博物館が試みている教育活動を調べることを課題とし、オンライン授業開始後にそれを踏まえて新しい博物館教育活動を考える手掛かりとした。</p>	郡山女子大学 短期大学部
<p>リモート・対面を併用して授業を実施した。</p>	皇學館大学
<p>工夫ではないが、個人的事情によって上記すべての科目（6科目）をオンデマンド方式で行った。その際、講義スライド（pptx版）、説明資料（word版をPDF化）を受講生全員に本学指定のoneDriveを使って配布し、出席や質問はdotCampusにて一定期限内に受取り、質問等の回答は次の授業時に行った。</p>	神戸学院大学
<p>博物館経営論、3回生後期、リモート（zoom）、学外実習（対面） 前半：「ブレイクアウトルーム」を使用。1グループ2～3人程度に分けて、テーマについて意見交換 後半：（実践・課題編）各地で活動されている方々のインタビュー動画視聴後「意見交換」 学外実習は、蜜を避けるため、2回に分けて実施。</p>	神戸女子大学

<p>通常すべて対面で行う授業をハイブリッド（併用）といたしました。</p> <p>本学では、ZOOMを使用して授業を行います。</p> <p>例えば、博物館資料論ですが、履修生20名のうち10名がオンラインでした。（ハイブリッド授業では対面の授業をオンラインでも提供します。）</p> <p>オンラインの学生はZOOMで受講します。（対面の受講生もZOOMに接続できるデバイスを持ってきてもらいます。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内にある登録有形文化財の見学と調査は、担当教員（私）がZOOMで現地から中継。 ・資料調査（ワークショップ）では、オンラインと対面の学生が組んでZOOMを通して行いました。BREAKOUT ROOMを使用。 ・大学博物館内のデモンストレーションの授業ではZOOMで中継。 ・外部の講師（博物館学芸員・研究員）にはZOOMで「コロナ禍での科博の取り組み」についてプレゼンテーションを行っていただき、その後に学生たちとディスカッション。BREAKOUT ROOMを使用。 <p>参考文献など、すべての資料は授業のMoodle上に置き、課題もMoodleにアップロードする方法をとりました。</p>	<p>国際基督教大学</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料論では、いつもはプリントを配布するので、事前にプリントを大学の私の研究室に取りに来るよう連絡し、こられない者には郵送した。（「博物館資料論」担当）春学期・リモート ・テキスト「新時代の博物館学」を利用し、それを通読しながら解説する形で進めた。（「博物館概論」担当）秋学期・対面リモート併用 	<p>札幌大学</p>
<p>リモートでのウェブ授業に切り替え、それ用のコンテンツを新たに作成した。可能であれば、必要に応じて対面を組み込んだ。</p>	<p>山陽学園大学</p>
<p>博物館資料論、後期、授業方法（対面で実施、最後の2回のみリモート）。YouTubeの動画視聴とリアクションペーパーの記入をもって出席とした。外部講師をリモートでつなぎ、リアルタイムで講義してもらった。講義は録画して視聴も可能とした。</p>	<p>静岡文化芸術大学</p>
<p>1の授業担当は非常勤講師であるが、とりまとめをおこなっている学内担当教員からお返事します。「博物館経営論」（前期）と「博物館教育論」（後期）はオンライン（2つとも同じ教員が担当）。その他はいずれもオンデマンドで講義し、課題を出して小レポートを出させる方式でおこなった。前期期間は美術館が休館したり予約制であったりしたことから見学をおこなわなかった。「美術館展示論」（後期）では美術館が提供する館内の展示施設を見せる動画などを活用した。しかしやはり実際に美術館に足を運ぶことは重要であるため、特に後期の授業「博物館情報・メディア論」、「博物館実習」、「博物館教育論」では見学をおこなった。ただし一斉に見学することを避け、一定期間内に自由に見学をさせた。「博物館教育論」（後期）では一部で既存の動画教材を用いてきたが、オンラインでは著作権上使用できないため、その回だけは対面とした。</p>	<p>実践女子大学</p>
<p>博物館概論・博物館経営論・博物館資料保存論・博物館展示論（前期、リモート）に関しては、実物の資料を直接提示することが困難だったため、写真を大幅に増やし、実物資料をwebカメラを通じて見せる等の工夫を行った。</p> <p>博物館資料論・博物館教育論（後期、併用）では、15回中14回は対面授業を行えたため、従来の方法ではほ行うことができたが、テストに関してはリモートに対応する方法で行った。</p>	<p>就実大学</p>
<p>いずれの科目も対面とリモートを併用して授業を行いました。</p>	<p>白梅学園大学</p>
<p>生涯学習概論、ミュージアム概論、ミュージアムマネジメント論、ミュージアム資料論、ミュージアム保存科学、ミュージアム展示論、ミュージアム教育普及活動、ミュージアム情報論は、すべて2単位講義科目であり、前期と後期に振り分けてMoodleによるリモート授業を行なった。担当教員はMoodleの事前研修を受け、授業を実施した。</p>	<p>常磐大学</p>
<p>Googleのclassroomを使用し、資料の提供、レポートの提出（回収）等を実施した。一番配慮したのは、レポート作成作業に加重負担をかけないことであった。</p>	<p>椋山女学園大学</p>
<p>基本的に遠隔授業の形態を取る必要があった為、オンデマンド型で対応できる講義動画を作成した。講義内容は対面実施の際と大きく異なるものではなかったが、対面授業に比べると実物資料を見せたり、参考となるような映像を見せたりという部分が十分にできなかった。学生からのリアクションを通して伝わった部分、伝わらなかった部分を確認しながら授業を進めた。</p>	<p>椋山女学園大学</p>

<p>※博物館概論、前期、リモート（オンデマンド）：1週間の間、何回でも視聴可能な音声付きのパワーポイント資料および音声のないPDF版の資料を毎回提示し、各回とも課題を出して、回答を提出させ、コメントが必要と認めた回答には、コメントを返した。</p> <p>※博物館経営論、前期と後期、リモート（オンデマンド）：前期は、上記「博物館概論」と同様に対応した。後期は、音声付きパワーポイント資料、音声のないPDF版の資料に加えて、音声付きの動画（mp4）を提示した。また、前期と同様に、毎回課題を出し、回収するとともに、すべての回答に対して、必ずコメントを返した。</p> <p>全ての講義を事前収録し、オンデマンド方式とした。質問事項は大学のシステムを使って、いつでも対応できるようにした。</p>	成城大学
<p>博物館教育論。後期。zoomによるオンライン授業を実施。後期は対面授業を行う教科もあり、オンライン時間帯に授業を受けることができない学生がいたため、zoomの録画も併用した。</p>	
<p>科目名（区分）：博物館経営論（後期）、博物館資料論（前期）、博物館展示論（後期）、博物館情報・メディア論（後期）</p> <p>授業方法：リモート</p> <p>工夫点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての講義をリモートにし、講義資料としてはレジユメのほかパワーポイントのスライドを配布した。 （通常は口頭で説明する内容をすべて文章化。） ・デジタルアーカイブやSNS等、ネットツールの活用やその分析を軸にした講義内容に変更した。 	西南学院大学
<p>博物館概論：前期リモート。博物館が力を入れている動画などを積極的に取り入れた。本学卒業生で学芸員をしている人物から、学生たちへメッセージを書いて貰い、コロナ禍の生の声を伝えた。</p> <p>博物館展示論：前期・後期リモート。実際の学内ギャラリー展示室現場での講義はできなかったが、学芸員時代の展示作業の実際などの画像を豊富に用いてヴィジュアルでも分かるように伝えた。</p> <p>博物館教育論：後期リモート。コロナ禍において博物館で実際に実施している教育普及事業への在宅参加を促した。私が実際に招聘された音声講演記録などをHPからアクセスして視聴してもらうよう促した。</p> <p>どの科目も、方向性として博物館が充実させたコンテンツを最大限利用するようにした。</p>	多摩美術大学
<p>博物館学概論1（前期）、同2（後期）…zoomを利用したリモート授業。後期はネット環境が安定してきたので、動画の視聴が可能になりチャットで解説を加えることで受講生の理解を深めることができた。</p> <p>博物館展示論（後期）…平時は博物館見学と発表および議論をメインにしていたが、集団での見学ができない状況なので、テキストを利用した授業をおこなった。</p>	大東文化大学
<p>オンデマンド</p>	
<p>前期「博物館概論」、後期「博物館資料論」につき、受講者も多いため、Teamsによるオンライン授業を行いました。出席はFormsにより毎回課題に答えさせることで取りました。評価は最終回のFormsに課題を多くあげ、テスト代わりにしました。</p>	千葉経済大学
<p>2020年度前期開講の社会教育概論（1）はオンデマンド型での実施とした。</p> <p>そのうえで、オンラインでの実施を前提とし、資料については、文部科学省のHPから過去の答申、近隣市区町村の生涯学習計画を見て、そこに書かれている内容のまとめと考察、および必ず一つ以上の施設のHPを確認しどのような教育活動が行われているかについての考察といった、小レポートを提出させるといった工夫を行った。</p> <p>オンライン授業だったので、実物を手に取って評価してもらったり、実際に使ってもらうことができなかった。そのため、基本的には、文献の講読・小テスト・フィードバックのサイクルとなった。一方、これまでであれば教員が説明していたさまざまな教育プログラムについて、課題としてインターネットを使って学生に調査してもらい、結果を教員が集約して学生と共有することを数回行った。その結果、教員だけでは採しきれない多様なプログラム情報を得ることができ、また学生も自分自身で調べてみることで博物館が多様なプログラムを行っていることを実感できたようである。</p>	中央大学

博物館展示論（後期） オンライン会議システムを使用したリモート方式で実施 ・大学の学習支援システムを併用して学生からのリアクションをアンケート形式で収集。 ・学生からの質問は学習支援システムを通して行い、次の講義時に口頭で回答することにより講師側の負担を減らした。	
オンラインにて双方向型の授業を進行するとともに、学生にはレジュメやデータを送信して、課題の提出を課した。また、学生のアンケート入力によりリアルタイムで統計データを作成できる機能（クリッカー）を用い、オンラインならではの内容とした。	
【博物館情報・メディア論、後期、リモート】大学の授業支援システム内の掲示板を使った課題提出や情報共有を行った。前者は学生が他の学生の課題と自分のものを比較できるようにするため。後者は授業内容に関するシンポジウムやサイトを紹介し、学生も見つけた場合は同掲示板に情報を掲出できるようにした。	
博物館資料論：前期：2020年度前期の授業はすべてリモート形式となった。事前に教科書の購読ページ、参照資料を示して、それについて解説する方法をとった。授業時間は講義・解説にほぼ費やして、授業後に小レポート（400～800字程度）を提出してもらうようにした。	
展示論・後期・リモート 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらっているが、そこに質問等があった場合には次回の授業時や掲示板等で回答したり、授業終了時に質問の時間をとったり、コミュニケーションをとる場を設けるように努力はした。	
博物館経営論、秋学期、授業方法（リモート） パワーポイント資料を充実させたこと、できるだけ最新の関連新聞記事を掲載すること。	
博物館資料保存論、後期、リモート ・オンライン授業のため、板書する時間（平均30分程度）が必要なくなったため、その分を口頭説明や資料紹介に充てた。	
15回をほとんどがマイクロソフトチームスによるオンライン。一部を大学の教育支援システムMANABAによるリモートのオンデマンド授業に転換して、対面はゼロ。	鶴見大学 文化財学科
基本的に全面リモートに切り替えるのが精一杯で、「新たに試みた実践」とまで言える内容はありません。	帝京科学大学
博物館情報メディア論、前期、リモートと対面の併用、リモート講義ではデジタルミュージアムやオンラインコンテンツを活用し生徒の学習を促進した	帝京大学
いずれも秋期で、受講生数も規定以下で対面可能だったので特に通常と変わらない。	天理大学
全てがリモート授業となったことで、パワーポイントに音声を加えて動画を作成したこと、YouTubeで公開されている動画を用いたこと、著作権者に許可を得てDVDの画像を受講者限定で送信したことなどを行いました。	東海大学（湘南校舎）
博物館資料論、2年後期、リモート 資料の扱いについて、手元を映像化し、配信しつつ、講義を進めた。	東京家政学院大学
博物館概論（前期）・博物館経営論（後期）・博物館資料論（前期） いずれもリモート ○授業の合間にZoomのチャット機能を用いて学生の理解の確認を図った。 ○博物館が公開しているYoutube等の動画資料を教材として用い、博物館における最新の現場情報を伝えるようにした。 ○文化庁HPで公開されている学芸員資格認定試験の過去問を毎回の授業課題として課し、学生の理解の定着化を図った。	東京女子大学
前後期ともにすべてオンライン授業。	東京造形大学
博物館資料保存論：前期及び後期（キャンパスにより）、リモート（オンデマンド型）のみ。 15回全てでオンライン入りパワーポイント「配信教材」を1週間ごとに作成配信した。視聴時間30分から40分で、その後は出された課題に取り組む。課題レポートは1週間後に提出。これをもって、出席とみなした。配信教材は当該期のみ自由に学生がダウンロードできる。	東京農業大学

<p>博物館資料論（前期）はZoomのオンタイム型式で、博物館経営論（後期）はオンデマンド方式で実施した。いずれも対面ではなかったため、レスポンのクリックカー型式を併用し、質問を受け付け、できるだけ丁寧な回答を心がけた。</p>	<p>東北学院大学</p>
<p>博物館資料論（オムニバス）・古文書資料論（3コマ分）担当・授業方法（リモート、テキスト形式・自主学習・課題）：対面では古文書資料を実際に活用できるが、リモートのため、紙質の質感については難しい。そこで、顕微鏡写真や色など、古文書料紙の画像を提示して視覚的な学修に心がけた。文化庁推奨の文書目録調書（カード）を提供して字際に文書目録を作成した。東大史料編纂所や京都歴史館など、研究所や博物館のデータベースや画像資料を活用して、史料の保存と活用について学修した。</p>	<p>東北福祉大学</p>
<p>博物館資料論、秋学期、リモート・対面併用 リモートの場合は、オンラインにおけるレジュメ配布とともに、音声入りの動画を提供。課題提出のときには質問を書けるようにし、後日それに答えるなど、双方向性を確保するように心がけた。一か月に一度程度対面講義を行い、顔合わせをするとともにリモートに不具合が無いかなど確認をした。またレポートの説明などは対面講義の際に行うこととした。</p>	<p>同志社大学</p>
<p>フルオンライン・オンデマンド型で実施、レジュメとそれを解説する音声を配信、参考になる資料や画像集を配信し、チャット欄で学生に意見や感想を記入してもらった。</p>	
<p>『博物館教育論』、秋学期、対面授業 生徒個人：入室前の手消毒、マスク着用、（予備に携帯ウェットティッシュ配布） 環境整備：座席の間隔、換気（自動換気システム+窓を少し開ける）等 授業での工夫：対面授業の「今ここにいること」を尊重し、できる範囲での双方向性のある授業をいつも以上に考慮した。座席の間隔をとりながら、個人が意見を述べる機会も多くとり入れた。授業後に質問等にくる生徒も多く（はずかしがりや、人見知り）、対面授業のありがたさを感じた。</p>	
<p>生涯学習概論担当（非常勤）です。すべてリモート授業となったため、毎回、講義用の動画を作成し、配信した。大学の授業支援システムを使って、課題の発表・提出等のやりとりをおこなった。メールアドレスを公開し、質問等を随時受け付けて、個別の対応を心がけた。</p>	
<p>博物館情報・メディア論は、第1回～11回を遠隔授業、12回～15回を対面授業とし、感染症対策を取りながらグループワークとプレゼンテーションを実施した。</p>	<p>長崎国際大学</p>
<p>・ほとんどの授業は、WEBでテキスト（全博協西日本部会編集）学習（レポート）にしたが、後期開講の展示論はビデオ撮影により配信し、講義した。 【博物館資料論／博物館教育論】 リモートで課題を課した。課題はテキストの各単元をまとめるものであるが、各自の経験に照らして理解するように指導した。 【博物館展示論】 博物館展示論、WEB録画配信授業： ・グーグルアースを使って館内展示を解説。 ・各博物館のホームページを閲覧し、解説。 【生涯学習概論】 科目名：生涯学習概論（一）、期区分：前期、授業方法：リモート 小レポート等の文面を通じて、対面の授業のとき以上に、一人一人の学生が何を思考しているのかを丁寧に読み取るよう心がけた。 【博物館情報・メディア論】 「博物館情報・メディア論」、後期、リモート 授業1回ごとに、パワポで講義資料（約15枚）を作成し、PDF化した後、添付資料とともにポータルサイトを通じて学生に配信し、リアクションペーパーを回収した。板書を使っての対面授業とは異なり、参考図面や写真の提示が容易で、且効果的であったと思う。しかし、非常勤講師として、1クラスを受講生223名のリアクションペーパーを点検するのは、大変な労力と根気を必要とした。 【博物館経営論】 科目名は博物館経営論（前期）、リモート（レポート方式）で実施。 突然のことであり、対応する時間的な余裕がなかったため、今年度に関しては大きな工夫は講じられないままスタートせざるを得なかった。</p>	<p>奈良大学</p>

<p>全ての科目でオンライン授業を実施した。一部の科目（博物館学D）では対面授業を行ったが、その場合もオンラインを併用している。</p>	<p>南山大学</p>
<p>□博物館概論 リモート（オンデマンド型） PP（パワポ）に音声と動画を付けたうえ、MP4形式の動画として、繰り返し視聴できるようにした。毎回リアクションを求めることにより、教員との意思疎通を図った。</p> <p>□博物館経営論 リモート（オンデマンド型） PPに音声と動画を付けたうえ、MP4形式の動画として、繰り返し視聴できるようにした。毎回リアクションを求めることにより、教員との意思疎通を図った。</p> <p>□博物館資料論 リモート（オンデマンド型） PPに音声と動画を付けたうえ、MP4形式の動画として、繰り返し視聴できるようにした。毎回リアクションを求めることにより、教員との意思疎通を図った。</p> <p>□博物館展示論 リモート（オンデマンド型） PPに音声を付け、繰り返し視聴できるようにした。毎回リアクションを求めることにより、教員との意思疎通を図った。</p> <p>□博物館情報・メディア論 PPに音声を付け、繰り返し視聴できるようにした。毎回リアクションを求めることにより、教員との意思疎通を図った。</p>	<p>日本女子大学</p>
<p>前期授業は、全てリモート授業で行った。博物館経営論、博物館資料保存論などは、オンラインの同時双方向による授業を行い、映像資料や実物資料を写して、学生に臨場感を与える授業展開を心がけた。オンデマンドの授業は、テーマごとの復習とまとめを兼ねて数回に一度のペースで行った。また、チャット機能を用いて、学生に答えてもらうことで、学生間の意見を開けることや教員とWEBカメラを通じて話が双方向でできることなどから、授業に対する意識がたかまった。</p> <p>また、博物館展示論、博物館資料論、博物館教育論の授業内では、口頭で学生に問題を示し、チャット機能を使い、学生全員に質問に答えてもらい、そのことについて、具体的に教員がコメントするなど、相互の対話ができるように配慮した。</p> <p>後期授業では、Zoomのブレイクアウトルームを多用し、少人数に分けて学生間で意見交換や問題作成をすることで、コミュニケーションが深まり、学生が一緒に授業を受けている実感が湧いたとの意見が多く聞かれた。</p>	<p>日本大学（理工学部）</p>
<p>課題に関し、自宅の周辺でできる課題を出しました。 博物館資料論、後期、オンデマンド（録画と課題提出）、自宅周辺の公園でできるモグラ調査、グーグルフォームを用いた結果の集計</p>	<p>日本大学生物資源科学部</p>
<p>博物館概論（前期）、博物館経営論（後期）、博物館資料論（前期）、博物館情報・メディア論（後期）、博物館展示論（前期）、博物館教育論（後期）は、リモート形式で、各回その回のテーマに関する資料（画像資料もふくむ）を作成・配布し、学生に学習してもらい、質問などはメール等で受付、次回にその質問と回答を共有してもらう方式をとった。また、テーマに関わる簡単な課題を課して提出させ、その状況で習熟度を判断していった。</p> <p>博物館情報・メディア論（後期）は、Zoomを利用したライブ中継型の授業を行い、1時間程度の授業を双方向で行った後、残り時間はその回のテーマに関わる課題に取り組む方式をとった。</p> <p>博物館資料論（前期）及び博物館展示論（後期）は、オンデマンド授業で、Power Pointによる録画授業の配信を行う方法をとった。</p>	<p>日本大学文学部</p>
<p>所属大学は学長が2021年度博物館学課程閉講の方針を決定したため、今2020年度開講は「博物館経営論」「博物館実習」のみ。「博物館経営論」は非常勤講師が前期に担当。「全学方針」としてだが、MicrosoftアプリのTeamsやFormsを使ったリモート講義が行われた（行っていただいた）。</p>	<p>梅光学院大学</p>
<p>前期は6月中旬までリモートでの授業を実施した。</p>	<p>羽衣国際大学</p>
<p>博物館に関する科目に限ったことではないが、一方向の授業にならないよう、学生が質問をしやすいう、ネット学習（本学が導入しているシステム）・チャット（リアルタイムで質問が可能）・メールの3種のツールから質問を受け付けるなど、授業環境に配慮した。</p>	<p>阪南大学</p>
<p>上記の講義科目のほとんどは、対面とリモートの併用により行った。マスク着用を徹底し、教室の換気を行った。</p>	<p>比治山大学</p>

博物館資料論、博物館展示論では、毎時間授業の後半で、過去に見学した博物館の活動や展示に関するスライドショーを示しながら説明を行うことで、博物館の実際の活動や展示をさまざまな角度から知ってもらえるように工夫した。また、博物館資料論、博物館展示論の課題レポートでは、休館中の博物館によるYouTube配信などの活動を報告してもらったなどした。	福岡大学
単純に対応（ZOOM等あるいは資料配布等）	佛光大学
全ての科目において、リモート授業を取り入れた。また集中講義を予定していた科目の一部においては、オンライン化による課題等負担の集中を分散させるため、前期、後期の通常授業の時期に移して開講した。	文化学園大学
「博物館情報・メディア論」（秋学期）（リモート：全てオンラインリアルタイム型）。オンライン授業という形式の中、できるだけ対面授業と変わらない質（内容）を担保するように努めた。チャットや表示機能を介したやりとりを行った（受講生の反応を逐次確認、講義の進め方についての確認、講義内容に関する確認など、できるだけ機会を設けた）、手に持てるサイズのホワイトボードを用意して板書のかわりにした、毎回授業後に出席調査票と意見・感想・コメント・質問（いずれでも可）を提出してもらった（対面でなく、オンラインの機会を生かして提出期間は授業後2～3日まで可とした）、授業ではできるだけオンラインの素材（URLのあるもの）を多く用いた（授業後、受講生に、授業で用いた情報のURLメモを配布した）。	法政大学
科目名：博物館資料保存論、期区分：春学期、授業方法：リモートによるオンデマンド方式、工夫点：初回以外のすべての回で質問や要望を受け付け、その週のうちに受講生すべてに対してフィードバックを試みた。	
zoomによる講義を12回中、3回行った。学生の声を聴いて対応できたことが有意義ではあった。	
博物館実習Ⅱ（企画展実施過程） リモート及び対面授業 後期からは対面を希望したが学生からの反対意見が多く、対面授業の多くをリモート化した。	法政大学・國學院大學
学生の登校時間を分散させる大学の方針により、遠隔授業形式による実施となった。また、大学の方針として動画利用時間を授業時間の約半分までとする制約があったことから、学習資料配信型（非同期型）での実施とした。実施方法の工夫としては、①一部講義について動画配信を活用、②パワーポイント資料（スクリーンに投影）+ 配付資料で実施していたものを配付資料に一本化、といった点がある。 ①については、動画の利用時間の制約がある中で、写真等を使用する内容についてその補足説明を動画教材（zoomの録画機能で作成）とし、配信した。しかし、ウェブ上に公開されている資料を利用する場合は動画とはせず、urlの指示と説明文という形式とした。 ②については、従来の対面型授業はパワーポイントで作成した資料をスクリーンに投影し、また資料を配付して口頭で解説を加える形態であったが、そのすべての内容を配布資料化して提示する方式とした。あわせて、毎回の小課題により理解の定着を図った。	宮城学院女子大学
後期開講の博物館概論（b）、博物館概論について（前期開講の博物館概論（a）と講義内容が同じため、後期に一本化した。） 授業方法は遠隔授業、教科書（『新博物館学教科書 博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』）を使用、授業資料として例年使用していた対面授業のレジュメを添付し、参照してもらった。毎回課題を出し、PDFなどで提出してもらい、必要に応じて添削をした。最終回にはまとめのレポートを課した。提出状況は良く、ほとんどの履修者が真剣に取り組んでくれた。	
・対面授業での実施 ・アクティブラーニングを行う上で、学生同士の話し合い活動を授業の中で扱うことを計画していたが、コロナ対応のため実際に行う事ができなかった。そのため、「他の学生の意見を聞く」という観点で、授業ごとに学生の感想や考えたこと、疑問点等を紙に書いてもらい、その中のいくつかを文字に起こして「たより」を作成し、次の回の授業で意見の紹介や、質問・疑問点に対する解説等を行い、考えを深める活動を毎時間行った。また、講義で使用した教室はワイヤレスマイクの使用が可能だったため、今まで行ったことのある博物館を紹介することを課題の一つとし、学生に発表する機会を与えた。	

授業資料はpdfファイル配布、出席確認のための課題はpdfファイルとWordファイルで配布を行いました。

授業資料は、PowerPointを用いて作成しました。1枚ごとのスライドで話が伝わるよう（1回の画面表示で情報量が完結することを）意識して作成しました。紙芝居をイメージし、連続して読み進めていくことで全体像が理解してもらえるように作成したつもりです。また毎回、前回授業の要点を取り上げ、振り返りも意識してもらえよう資料としました。資料には、関連するホームページアドレスをリンク先として提示し、各自が調べたいことについての付属情報を入手しやすいように心掛けました。

授業資料は軽量化を意識して、画像ファイルなどは最低限としたため、授業資料以外の情報も自分で調べて学習するよう、課題内容を検討しました。

博物館展示論 後期1コマ 対面授業

- ・授業準備段階においてコロナそのものの情報、それに対応するリモートの技術や指針についての情報が氾濫した。
- ・ZOOMに必要な機材や技術について調べたが、本務校が無いため相談する相手が無かった。
- ・リモートに関する機材の不足が予測されたので、早いうちにインカムふたつ（最後は事務所にも行けなくなったときに、支度から通話するため）、ホルダー1本を私費購入。
- ・リモート講義づくりの動画技術を学び始める。私費でテキストなど購入。
- ・これら購入したものは、後期に対面授業が始まったために必要なくなったが、今もいざというときの慣らし運転を続けている。

後期科目である「博物館経営論」は、人数も40人ほどだったため対面で実施することができた。授業に際しては大学側の指導と配慮のもと、「三密」を避けるため学生同士の席を離すことが可能な規模の教室を使い、手指の消毒やマスク着用を徹底した。また、換気のため窓の一部と出入口を開放し、風の流れを絶やさないよう心掛けた。

- ・パワーポイントのスライド版と講義内容の口頭説明を記述したノート版の2種類のデジタル教材を配付した。
- ・重要部分については説明動画を作成し視聴できるようにした。1本の動画は数分から20分程度とし、1回の授業当たり複数本に分割してアップロードし、学生が自分のペースで閲覧することが容易にできるように配慮した。
- ・各授業ごとに、学生が行うべき学修活動、その時に使用する配付教材の範囲や動画ファイル名称、おおよその所要時間を記載した「進行表」も配付した。
- ・教材ファイルはGoogle driveに保存し、閲覧できる期間を区切ることで、学修リズムを維持できるよう配慮した。
- ・各授業ごとに、課題や小テストを課し、また質問や感想をデジタルデータとして提出させた。
- ・上記の課題や小テストの解説、質問の回答等を作成し、毎回、フィードバックした。

博物館資料論、博物館資料保存論については、原則リモート。博物館教育論については、前半は講義形式でリモート、後半は企画・発表などアウトプット重視のため、密にならないように、対面授講生数を半数ずつにしながリモート対面の併用としました。尚、リモート対面の選択は、本人の希望を尊重しました。

武蔵野音楽大学

<p>博物館経営論（集中講義 リモート）：通常ならば、ギャラリーと美術館を巡り、芸術作品に付与された諸価値の多様性とそれらが孕む政治経済的な問題を中心に講義が展開されていたが、今年は実際に現場へ赴くことが叶わなかった。そのため、主に美術館をテーマにしたドキュメンタリーとフィクションの映画を視聴し、レポート提出を求めた。さらにそれらをもとにリモートでディスカッションを行った。各学生の意見をテキスト・データで共有した上で、個々人が抱えるパースペクティブを深めることができた。リモートの利点として、すぐに必要な資料を共有できることが挙げられると感じた。</p> <p>博物館展示論（秋学期 リモート）：通常ならば、ギャラリーと美術館を巡り、物体と情報をどのようにレイアウトすれば、より良く伝達可能なのかという問題を中心に講義が展開されていたが、今年は実際に現場へ赴くことが叶わなかった。また、自らが大切にしている物の調書を作成し、物と情報を講義内で展示することをしていていたが、実際に物を持って集まることは叶わなかった。しかし、後者をリモートで行うことにより、持ち込み不可能なサイズの物を今年は対象とすることができた。また、より多くのイメージを共有することができた。</p> <p>博物館情報・メディア論（春学期 リモート）：例年、講義ノートの作成を義務づけているが、学期末にまとめて提出してもらっていたが、データで毎週の提出を求めたため、理解度に応じた補足をすることができた。</p> <p>いずれの科目についても新に可能となった点はZoomやGoogleクラスルームとフォームなどの未使用だったツールを用いることによって可能となった。</p>	
<p>武蔵野音楽大学の「博物館学概論」は、2020年度前期に、完全オンライン授業として実施された。例年この授業では座学のみならず、資料の取り扱いの初歩にあたる内容、さらに学外の施設見学（他の学芸員課程科目と合同で実施）も実施している。</p> <p>しかし、今回はオンラインで行う以外の選択肢がなかったため、講義そのものの質を可能な限り高めることとした。具体的には、オンライン授業内での同時字幕対応、授業内での学生とのやりとりでチャット（Zoomの付属機能）の活用が挙げられる。</p>	
<p>授業はすべてリモートになったため、学生の調査研究発表は取りやめ、代わりにレポート提出の内容を教員がオンラインで紹介した。</p>	
<p>学芸員課程の全ての講義科目がオンライン授業での対応となった。オンライン授業は、生涯学習概論と博物館資料論、博物館資料保存論はオンデマンド方式、映像の授業コンテンツを作成し、課題とリアクションペーパーを提出させ、それに対するフィードバックを全体に対して行い、チャット機能で個別の質問に応じるという形式で行った。本学では授業のプラットフォームとしてMicrosoft Teamsを用いたので、その機能を使用した。</p> <p>博物館概論、博物館経営論、博物館展示論、博物館教育論、博物館情報・メディア論は、リアルタイム方式でZoomやMicrosoft Streamを用いて遠隔授業を行った。これは通常の授業と内容的には大きく変わらず、リアルタイムで質問等も受け付けながら、授業の設定されたコマに授業を行うという形式で行った。</p> <p>Microsoft Teamsを全ての授業で使うことになったため、参考資料の配布や参考とする博物館の取り組みの資料、展覧会関係の資料、関連する論文などを、非常に簡単に共有することができるようになり、学習内容もこれまで以上に幅が広く、充実したものとなっている実感を持っている。</p> <p>一方、講義形式であっても、学芸員としての手の先にある様々な仕事や技術についての内容は、やはり対面でものを見せながら、実演しながら伝えるようなことも多いが、対面授業では驚くほどそうした技術的な側面を伝えることは難しい。その授業の回によって、オンライン授業で効果のあることと、オンラインではどうしようもないようなことが、明確に分かれるということもわかり、来年度の授業に生かしたい。</p>	武蔵野美術大学
<p>基本的に全科目がリモートでの開講であった。学生の通信環境が十分に整っていない春学期は、収録配信型と課題提示型の授業が大部分であり、秋学期になってからはリモートによるライブ授業が中心となった。博物館概論と博物館教育論では、これまで対面の授業では使用することのなかった映像教材を活用した。</p>	明治大学

<p>本学では、該当科目を「教育メディア環境論」(講義科目2単位)「博物館情報論」(集中1単位)として開講しているのですが、今年度は、全てリモートでの実施という制約の中で、パンフレット・リーフレット等の作成演習(コンピュータ演習)等は、学内のリモート学習システム(VDI活用)、博物館施設に引率指導し、リピーターを増やすための苦勞・工夫等については、過去10年間の引率指導を映像コンテンツにて視聴してもらった。受講生からは、コロナ禍が終息してから自身で出向き学びたいという意見を多く回収できた。</p>	名城大学
<p>選択した博物館概論、博物館経営論、博物館資料保存論の3科目とも本学ではリモートで行ったが、人数がそれなりにいるため、3回の小課題を出させて、授業の理解を促進した。特に前2つの科目はパワーポイントに音声を入れ、また私が海外・国内で撮影した博物館の内外の写真を従来の講義で見せていたものより数倍増やして作成した。</p>	桃山学院大学
<p>・博物館概論 6月 リモート 板書しながら解説する授業を動画にとって配信。学生が板書や講義内容をノートにとったものの1ページ分を写真に撮って返信。これを出席とした。 7～8月 対面 学生はマスク、手指消毒の上。間隔をあけて着席 教員はマスクにフェイスシールドをつけて講義を行った 教室の入室ドアを開けたままとし、換気に配慮した</p> <p>・博物館資料論 10月～1月 対面 通常授業は概論と同じ 実習ではないが、実物資料の取り扱いにおいては密にならないよう学生を2グループに分けて実物授業の授業と自主学習で対応した。</p>	山形県立米沢女子短期大学
<p>博物館概論 博物館資料保存論 博物館教育論 博物館情報・メディア論、前期、リモート 博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論 後期、対面とリモートを併用</p>	山形大学
<p>可能な限りリアクションペーパーの提出を求めた。</p>	立正大学(熊谷キャンパス)
<p>配信によるリモート授業</p>	和光大学
<p>科目名:博物館資料論 授業方法:リモート 工夫点や新たな試み:資料の養生・固定・取扱など、本来なら対面で実技指導すべき部分が実施できなかったため、当該部分については画像を交えるなどして、説明を試みた。また緊急事態宣言下で博物館が閉鎖した期間があったこと、自然災害などによる博物館資料の被災を鑑みて、三次元データの取得が資料保存およびデジタルミュージアム構築につながるものであり、その実践方法を授業の中で補足説明した。</p>	民間企業に所属

<p>3.【学内実習授業】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。 *その方法などをご記入ください。</p>	
<p>学内では軸や陶磁器の取り扱いの実習をしたが、対面で実習する時間をなるべく効率よく行うために、あらかじめ資料をオンデマンドで送付し、手順を理解した上で実習に臨めるようにした。</p>	愛知学院大学
<p>対面授業をおこなった先生と、リモート授業をおこなった先生とがいる。 両者の差についてはまだ何ともいえないが、リモート授業をおこなったのは受講生が少なく、実際に博物館の展示を見に行かせてリモート講義で活用する、などの試みも実現できたようである。</p>	愛知淑徳大学
<p>実習系科目では感染症拡大防止対策を行いながら、対面授業を行った。その際、オンラインで参加を希望する学生に対しては、授業をリアルタイム配信し、かつ教材を自宅送付するなどの対応を行った。</p>	青山学院大学
<p>コロナウイルスに関係なく実施していた。</p>	江戸川大学

春学期中は、学内実習の実施ができなかったが、7月23日以降、十分な感染症対策を行った上で集中形式の対面授業が可能となったため、独自に「学内実習実施に当たってのガイドライン」を作成し開始した。教室はより広い場所を確保し、毎日教室や資料の消毒を行うとともに、2人1組で実施していたものは個人実習に変更するなどした。オンライン化が可能な実習部分は、ZOOMを用いて実施した。	桜美林大学
学生数を1教室10人以内にし、それ以上の学生数の場合は2教室に分散して実施した。	大阪芸術大学
手指の消毒やマスクの着用を徹底しつつ、できる限り実物の資料を扱うことができるようにしました。	大阪大学
学生さんと接する機会がこの講義しかなかったため、一定の距離を置きながらも、楽しい会話ができる環境を作ったつもりです。	大阪大谷大学
前期はオンラインで実施。	大谷大学
作業場所を離す、部屋を分ける、グループワークを減らす。	大手前大学
学内実習授業は8回分がリモート授業となり、講義資料の送付と課題の提出により行ったが、そのほかは対面で行うことができ、集中的に実技実習を行った。	岡山商科大学
フリーのアプリを使って、画像、図面、映像の製作・編集を行った。実習室が密になる環境であったので、対面無し。	岡山理科大学
Zoomによるオンライン配信の形で授業を行った。	お茶の水女子大学
オンデマンド配信と教材提示を併用した。教材提示だけでは不足する資料の取り扱い方などの内容はオンデマンド配信とした。	関西大学
これまでは、水族展示の企画立案し、それを学園祭にむけて実行していた。しかし、2020年度は、コロナ禍により、学園祭での企画展示は出来なかった。 同じように、コロナウィルスの影響による緊急事態宣言下の全国の水族館においても閉館を余儀なくされた。しかし、各水族館では、閉館中の動画を配信するなどをして、一般市民にアピールしていた。 当学部にはミニ水族館のアクアリウムラボがあるが、コロナウィルス感染が拡大してからはずっと閉館したままである。アクアリウムラボは営利を目的としていないため、閉館していても問題は無い。しかし、北里大学海洋生命科学部のミニ水族館であるからこそ、来館者が来なくても、来る事が出来なくても、一般市民を生涯学習の場として満足させることができるはずである。 そこで、コロナウィルス感染拡大をさせずに、アクアリウムラボを楽しめ、生涯学習に対応できる方法を企画させた。	北里大学
博物館が実施されていた「おうちミュージアム」の取り組み等のサイトやシンポジウムの動画配信を教材や実習資料として活用させていただいた。	岐阜女子大学
・博物館資料論 学内実習は、残念ながらおこなえませんでした。 ・博物館実習Ⅲ 座席指定・ソーシャルディスタンス	京都橘大学
講義内容に則した動画を自作成し、配布資料として発信した。また、箱の紐かけでは、紙箱・紐を購入して、自宅に郵送した。並行して、その動画や関係する写真映像も自撮りし、教材として使用できるように提供した。	京都産業大学
前期はリモートにせざるを得なかったため、後期の対面授業では前期の復習に時間を多くとった。	京都精華大学
学内実習の一環として、現役の学芸員の方に講義をお願いし、Zoomを利用してリモート授業を行った。	京都文教大学
博物館実習Ⅰ(学内実習)を担当。周辺博物館のHP等を活用した。	久留米大学
学内実習については毎年企画展を行っているが、これが難しいために企画展を模型制作によって作成した。議論はオンラインホワイトボードを利用し、スチレンボードなどの材料のみ配布し、各自担当の部分を議論しながら政策していった。結果的に例年よりも議論や表現の幅が広がっていったように考えている。	九州保健福祉大学
資料の取扱い方法について、動画教材を作成した。	県立広島大学

<p>実習科目（本学では「博物館実習Ⅰ：座学と展示実習」）の授業は、受講生の希望によって対面と遠隔で実施した。対面授業のうち、座学は対面授業希望者に対しては従来通り実施し、一部の遠隔授業希望者には、座学授業の動画をオンデマンド形式で配布した。展示実習は、対面授業希望者に対しては従来通り実施し、一部の遠隔授業希望者に対しては、著書：博物館実習マニュアル（芙蓉出版、2010年）からいくつかの分野を読んで、それらをまとめたレポートをdotCampusを通して提出してもらった。提出されたレポートには、コメントをつけて受講生にフィードバックした。</p>	<p>神戸学院大学</p>
<p>前期：zoomとmanaba（神戸女子大学ポータルサイト）併用でリモート実習 ①館園実習の事前実習として「博物館を支える学芸員の仕事」DVDを視聴し、レポートを提出させる。その内容をまとめたうえ、リモート（パワーポイント）で解説し、問題点を共有する。 ②梱包実習と美術品取り扱い実習（外部講師による特別講義）は、リモート（パワーポイント使用）で実施。感想と質問のレポートを提出させ、質問への特別講師の解説をmanabaに掲載して共有。 後期：①各自がテーマに沿って採拓した拓本の展示実習（例年は300人以上の来場者あり）が、大学祭中止のためできなくなった。それに替わるものとして、各自が展示パネルを作成し、それを解説する動画を撮影し、学内むけに視聴公開した。この試みは実習生のモチベーションをあげ、達成感を得られた。</p>	<p>神戸女子大学</p>
<p>学内実習授業は、学期当初はオンラインで始め、次に学生数を半分に分けて対面とオンラインの併用、その後に通常使用していた教室より広い教室での対面と、状況を見ながら移行していった。</p>	<p>郡山女子大学 短期大学部</p>
<p>実際の資料を扱う時間を確保しつつ、説明はリモートで行うなど、対面が短くなるよう工夫した。</p>	<p>皇學館大學</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義のうち、オンラインで開講可能な部分はオンライン。 ・展示作業・照明作業・浮世絵の額装などは対面で行いました。 ・実習用品は個別に用意し、共有することがないように配慮。 ・密にならないように机・椅子は1.5～2mあけて設置。 ・グループワークはできるだけ少なくしました。 ・発表（個別・グループ両方）はZOOMで。 ・ディスカッションはZOOMのBREAKOUT ROOMで効率よく行いました。 	<p>国際基督教大学</p>
<p>コロナ蔓延下のため、当初予定していた見学実習は実施できませんでした。</p>	<p>国立音楽大学</p>
<p>「博物館実習」撮影の実習をやめて、事例を画像で紹介。VRやオンライン学習でテキストを紹介、専門用語とカメラのしくみ、撮影の手順を画像で示すなど、実習で指導することを、教材で補う。収蔵品の展示に伴う解説文の事例、書き方、伝わりやすい言葉などを、対面授業よりも丁寧に行った。</p>	
<p>オンライン参加の学生と対面参加の学生が同時に議論し学内実習の準備を進めることができるような環境の整備（ハイブリッド授業、学生間で自由に使えるオンライン会議室の設置）、オンライン参加の学生が実習過程を体験するためのオンデマンドのビデオ配信</p>	<p>駒澤大学</p>
<p>資料の取り扱いの授業では、実物投影機（オーバーヘッド・プロジェクター）を利用して授業を行いました。対面授業ができるようになってからは、学生の作業場所と作業時間をできる限り分散させるようにしました。</p>	<p>札幌大学</p>
<p>学内実習は本来、行っていない。見学実習は可能な範囲で積極的に実施。館園実習は引き受けてくれる従来の実習館に加え、卒業生が学芸員として就職している館を新たな実習館とし、学生の希望者全員に館園実習を受講させることができた。</p>	<p>山陽学園大学</p>
<p>通年の博物館実習（学内）は前期は完全オンライン、後期は対面授業となった。前期の教材はパワーポイントで作成して、音声を録画。音声だけでは臨場感が出ないと判断し、自分の映像もPowerPointに埋め込み、少しでも講義を受けているイメージに近付けた。</p>	<p>静岡文化芸術大学</p>
<p>学内実習授業では、物を扱う回だけは対面、説明の回はオンライン、オンデマンドとし、対面の際には従来より広い教室を使用し、換気、消毒に留意して10人未満でおこなった。外部講師による梱包実習では、従来全員を2クラスにわけておこなってきたところを3クラスにし、8月の一時状況が改善していた時期におこなった。また、ある美術館の方にオンラインレクチャーをしていただき、実際の見学が不足している部分を補った。館園実習では、学外で受け入れ中止となった学生の実習を学内の資料館で対応してもらうことができた。従来は展示しているなかでギャラリートークの実習をしていたが、それは取りやめた。かわりに、展示替えて空の状態の展示室で、展示設備、道具などを体験してもらった。</p>	<p>実践女子大学</p>

前期の前半までは、事前にリモートでwebカメラや写真等を通じて学習し、実習のイメージをつかんでもらうよう心掛けた。前期の後半は対面授業を行ったが、クラスの人数を半分にし実習のコマを倍にして、密にならないよう努めた。	就実大学
感染症対策を行いつつ、一度に参加する学生の人数を分散させて実施しました。	白梅学園大学
遠隔授業のみとなった前期授業期間はオンデマンド型で対応可能な内容を実施し、対面授業が一応可能となった後期期間は作業を伴うような実習をかためて実施する形を取った。対面授業の場合、教室内で受講可能な学生数の制限もあることから、前期のオンデマンド形式の授業は全員受講という形を取り、後期期間の授業は選択型として受講者数を調整しながらなるべく学生の希望に添う形で受講できるようにした。	椋山女学園大学
・学生と教師が常にマスクを着用し、互いに距離を保ち授業を行った。 ・授業時の資料配布は止めた（事前にメールで資料を送付）。	成城大学
移動可能な有線カメラを使って作品資料の取り扱いの実際をオンラインで伝習した。	
学内実習担当の学芸員の先生と予定を調節し、後ろ倒しになったものの、しっかりと例年通りの授業を確保した。	西南学院大学
基本的にはオンラインであったが、作品の取り扱いなど対面でないと効果が上がらない授業については対面で実施した。ただし感染が小康状態を保っていた10月初めから11月はじめにかけて、4回分しかも同日に4班に分けて行った。	大東文化大学
学内実習授業は、日数を増やし、人数を分散させて密を避けて対面で実施した。	多摩美術大学
前期は対面授業ができないため、Teamsの会議機能を使ったハイブリッド授業を行いました。つまり実習室で教員が資料の取り扱いを演じ、それを撮影して同時配信する方法です。	千葉経済大学
学内実習事業は、当初はリモートでの動画配信とし、その後、集中講義として対面で実習の指導をおこなった。	中央大学
例年はグループワークで模擬展示を制作し学内に掲出していたが、今年は各自に自宅で模擬展示を制作させ、その状況を写真により提出させた。	
オンライン授業では、資料の取り扱い方法の動画を作成して、その視聴と解説により学修の便宜を図った。また、換気やアルコール消毒の対策をした上で、集中方式で対面授業を実施し、古文書・民俗資料・考古資料を取り扱う実習を行った。	
授業に例年くみこんでいた国立ハンセン病資料館の見学実習は今回は見合わせた。 期末レポートは、例年通りに、都内での人権博物館を中心に示したおすすめ館から2館を選んで、見学レポートを課したが、コロナ感染症対策で、自宅にいる学生などは、授業の趣旨を鑑みて、自ら2館を選んで、見学レポートを書いてもらうことで代替えた。	
開始直前まで対面授業を前提にカリキュラム等も組んでいたため、学生が混乱をきたさないよう配慮することを第一とした。対面授業と異なり、学生側も講義時間内に質問することに対して身構える傾向があったので、時間外でもメールやポータルサイトを使用して質問を受け付けることとした。	
集中実習による掛物、巻物、刀剣、茶碗などの美術品取り扱い実習を昨年まで3年生60人を5日間で20人に分割して実技の実習としていたが、今年度は1日の参加者人数を半減して延べ10日間に変更した。学生の負担はそのうち3日で昨年と変わらないが、教員、助手、TAなどの勤務時間は倍増した。	鶴見大学（文化財学科）
可能な限りのリモート化を図りつつ、手作業が必要な内容を中心に一部を対面で行ないました。	帝京科学大学
博物館実習（学内実習授業：前期）では、最初の6回はオンライン授業、後半は対面授業を行った。オンラインでは資料の観察・理解・取り扱いの項目を設け、パワーポイントと音声で説明し、その後、各自で作業を行わせた。本学では動画・ズームは使えないので、課題の理解度は低い。その後、対面授業となったので、オンライン課題の補足を行い、新たな課題に取り組んだ。教育効果はオンラインよりはるかに優れていた。実習は言語知識に加え、知覚に重きをおく身体技能が重要であるので、あらためて対面授業の教育効果の高さを確認したが、オンライン授業でも工夫によってはある程度近づけることは可能と理解された。	帝京大学

遠隔のオンラインで行った。課題を指示し、成果を写真にとって送らせる、作業を説明したビデオ映像を見させる、テキストを読ませる、などの工夫をした。	天理大学
博物館教育論で解説シートを作成、プレゼンテーションすることを課しているが、そこで扱った資料をミュージアムグッズとして販売するための企画案を作る実習を行った。また著作権者の許可を得てDVDの画像を受講者限定で送信したこと、資料を扱う実習は、担当教員が資料を扱う様子を録画し、受講者限定で送信する予定である。	東海大学（湘南校舎）
バーチャル上での展示（パワポ上で展示解説や資料展示）を行い、受講者どうしてギャラリートークを行った。	東京家政学院大学
○遠隔授業であったため、学生に教材（ハレバネ等）を送付し、その成果物を写真撮影して提出させるという授業形態を採用した。成果物の写真を基に、添削・意見交換を行った。 ○学内所蔵資料を用いてオリジナルの資料取扱い映像を作成し、Zoomを介して適宜、解説を加えながら繰り返し上映し、学生の理解の定着化を図った。	東京女子大学
オンライン授業として実施したため、直接資料を扱うことやグループワークを行うことができなかった。代替の課題を設定して提出するかたちで行った。	東京造形大学
前期は全てオンデマンド型配信（各回に課題をもうける）。後期はZOOM、対面、配信教材の複合型とした。 対面実習は20人程度のグループに分け、教室も分けて行った。 対面が行えなかった前期には、教材用掛け軸、ルーペ等安価なものは購入し、学生に実習キットとして郵送した。モチベーションを維持するためには効果があったと思う。	東京農業大学
リモート、対面併用 実技の実習は大変困難で、教員が実施してみせる形で行った。	東北学院大学
対面講義の際に行った実習講義では、ウイルス対策を守りながら、消毒・手袋を使用し、学生同士の間隔を保つなど注意した。	同志社大学
ミュージアム実習Ⅰ（2単位）とミュージアム実習Ⅱ（3単位）は、リモート授業と対面授業を併用した。学内実習授業では、資料の取り扱いを対面で行い、掛軸巻き上げ練習キット教材の開発など学生が興味を持てるよう新たに工夫した。	常磐大学
学内実習科目は、手洗い、消毒、マスク着用、部屋の換気、人数制限などを講じたうえで、基本的には対面形式で実施した。ただし、緊急事態宣言が出されていた4月～6月、1月に関しては、学内への立ち入りが制限されていたことから、Zoomを用いた遠隔授業で対応した。	長崎国際大学
・三密を避けるため、10数名の人数にして行い、例年の2倍以上の時間を要した。 ・学内実習は、各分野（梱包A、梱包B、文献、美術絵画、美術彫刻、考古、民俗）についてそれぞれ一部屋で実施していたが、今年はコロナ禍により、実習生を4班にわけ、さらに教室についても午前2部屋、午後2部屋にわけて実施した。	奈良大学
博物館実習もオンラインで実施した。ただし、対面授業での実技指導を併用した。	南山大学
見学実習と館園実習についてはQ4、5の通り。 ここでは学内実習について。 実習はあくまでも対面で行うという考えのもと、週1回の授業を夏季集中型とした。しかし、夏季になってもコロナ禍が収まらなかったため、学内実習の実施には苦慮した。	日本女子大学
学生間の距離を保ち、マスクを着用、アルコール消毒及び換気を行い、アクリル版のガードによる仕切りをつけた。 教員の手元がわかるように、WEBカメラを使いスクリーンに写し、その後、学生を数人に分けて、教員が対面で指導を行った。	日本大学（理工学部）
学内の博物館での同時利用を10人以内になるよう、分散して実習を行った。	日本大学（生物資源科学部）
実習という性格上、リモートによる資料提供による授業と共に、資料に実際に接する対面授業を併用した。資料の取り扱い、梱包作業、採掘、写真撮影などは回数（5回～7回など）を限定し、感染防止策を徹底した上で実施した。なお、授業内容の性格上、全ての回を対面方式で行った講座もある。	日本大学（文理学部）

2. のとおり、リモートにしなければならない場合やリモートでできる場合は、MicrosoftアプリのTeamsやFormsを活用した。また、リモートを活用する可能性も含めた、展示企画を考えさせたりもした。	梅光学院大学
授業内容の工夫という訳ではないが、常にソーシャル・ディスタンスの確保を意識した。	阪南大学
対面により行った。マスク着用を徹底し、教室の換気を行った。	比治山大学
学内実習授業は教室などの対面式では1回も実施しなかった。資料の調査、撮影、調書の作成、データベースの作成、キャプションの作成などすべて、オンライン授業で概要を説明し、課題として各自行ってもらった。	福岡大学
課題提示と実習・実技などの動画をあわせて配信した。	佛教大学
学内実習授業においては、リモートでも一定の教育効果が担保できる授業回においては、積極的にオンライン化を進めた。DVDの視聴などを織り交ぜて、聴覚、視覚の双方から情報を伝達し、授業の質の維持に努めた。	文化学園大学
学内実習は、例年10日間を5日間に短縮して実施しました。展示室での展示は行わず、デジタルでの展示を作成しました。	法政大学
資料を扱う実習ではリモートで伝えられることに限界があり、これは対面であり、実際に学生からの希望も対面の方が効果的と肯定的。	法政大学・國學院大學
博物館実習Ⅰ（b）、前期開講 前期は10回まで遠隔授業、美術系のビデオをDVDに取り直し履修者に配布し、視聴してもらった。毎回の課題レポートは大学の用箋を使用、自筆で作成してもらった。DVDの内容は以下の通り。 ○ 博物館実務ビデオ講座 美術工芸品の取り扱い方 ○ 博物館実務ビデオ講座 文化財の劣化と保存科学 ○ 博物館を支える学芸員の仕事 11回から15回までは対面授業となった。美術作品の取り扱い実習、一眼レフカメラを使用しての写真実習の予備練習などを行った。 博物館実習Ⅱ（b）、後期開講 後期実習は対面授業となった。写真展開催に向けた撮影に多くの時間を使った。 後半は工芸品の取り扱い、軸装、茶道具の撮影など、ほぼ例年通りの内容をこなすことができた。	宮城学院女子大学
博物館実習において例年ならば、4年間学習した学芸員課程を総合する実習として学生主導の展示企画を大学の教室を舞台に行っていた。しかし、本年はそれが叶わなかったため、架空の展示会をWEB上に企画した。	武蔵野音楽大学
学内実習は、オンライン授業で行う内容と対面授業で行う実習とを併用した。共同作業や道具を共用する作業を避けたため、同じ課題を一人ひとり個別に行う内容を考えることに苦慮した。しかし、感染対策を講じながらいかに実習に取り組めるか、それぞれのものも課題として共有しながら作っていくような雰囲気を作ることで、対応できたことも多く、最終的には学内で展示も開催することもできた。	武蔵野美術大学
7月と12月に集中講義の形式で、資料の取扱いと梱包の実技実習を対面で実施した。資料の取扱いは掛軸、陶磁器、漆器を個人が扱う内容である。教室を複数確保し、1教室4人程度とし、マスク装着と換気の徹底に努めた。資料は基本的に素手で扱い、事前と事後に石鹸での手洗いを励行した。梱包の実習は、例年は大形の石膏像を3人程度が協力して梱包するものであったが、小さな資料を学生が個別に梱包する内容にした。大きな教室を使い、1教室8人程度が十分な間隔をとって実施した。ここでもマスク装着と換気の徹底、事前事後の手洗いを徹底した。	明治大学
大学全体の理解を得て、コロナ感染が一定収束した時期に、学内の感染予防対策を徹底した上での対面指導（実験・実習・演習）を認めてもらった科目と、一部、リモートで対応する科目を併用した。	名城大学
予定通り実施できたため、特別なことはしなかったが、三密を防ぐため、学生と教員、学生同士が十分な距離をとれるようにし、換気も十分に持って実施した。	桃山学院大学
対面とリモートを併用	山形大学

実習科目はオンライン（リモート）等で実施することが困難であったことから、学内において対面授業実施可となった段階で実施した。	立正大学（熊谷キャンパス）
実習実施教室を大教室へ変更	和光大学

4. 【見学実習】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。 *実施の有無と、できなかった場合は対応策などもご記入ください。	
毎年、春学期に名古屋市博物館の内部見学、秋学期に愛知県立芸術大学保存修復研究所での保存修復作業の見学を行っていたが、今年度はいずれもが中止となった。 これに対応するため、東京国立博物館の修復ビデオなどで対応した。	愛知学院大学
見学実習…海外研修は中止。代わりに県外実習に参加させた。 県外実習は、例年どおりのやり方（県外の博物館に観光バスで乗り付け、一堂がそろって学芸員の説明を受けたのち、館内を見学する）ではなく、東海地方50の博物館から各人が3館を選び、学芸員の手を煩わせることがないよう、それぞれの館のレポートを作成させた。 県内博物館見学も例年どおりのやり方（一堂がそろって学芸員の説明を受けたのち、館内を見学する）でなく、各人が個人で博物館を訪問し、レポートさせた。	愛知淑徳大学
見学実習は断念せざるを得なかったため、オンラインで公開されている館園の展示動画の視聴で代替した。	青山学院大学
実施しなかった。ホームページの閲覧を通して博物館の理解を促した。	江戸川大学
見学実習は、春学期中は実施できなかったが、1館当たりの見学人数を10に未満にしたり、通常よりも見学館数を減らすなどして、各館の協力を得て秋学期（9月）から再開した。見学実習に参加できなかった学生、参加したくない学生については、他の学内実習プログラムで補った。	桜美林大学
前期は感染症予防対策の一環として、後期に延期する対応を決めたので、実施しなかった。後期は前期分と併せ、2回実施した。例年通り、1日2館の見学にして、学生を2班に分け、午前と午後に入れ替え制にし、展示室数が比較的多い博物館を選んで実施した。学芸員の説明や質疑応答は省略せざるを得なかった。	大阪芸術大学
密を避けるため、比較的混雑しない博物館を選び見学を実施しました。	
これも初めて担当しましたので、実施したことすべてが工夫の連続です。おそらく通常みなさんが行っておられることをしたにとどまったと思います。	大阪大谷大学
前期は実施できず、後期は実施した。	大谷大学
団体入館ができない館は個別見学とし、レポートを書かせた。	大手前大学
見学実習に際しては、学生教員とも2週間前から検温、体調、行動記録等のチェックを行った上で、訪問館とも事前に協議し、計画通りに実施することができた。	岡山商科大学
なし。代わりに、博物館等からの映像の配信を実施。	岡山理科大学
見学実習は実施できず、見学予定館に関するHPを見て、館園の特徴を報告させるレポート課題や館園の特徴を踏まえ、入館者を増やすための企画案などを考えさせるレポート課題によって代替とした。	お茶の水女子大学
春学期 実施無 対応策:夏休み期間中に個々で博物館園を訪れたり、ウェブ上で博物館園の検索・調査を行い、バーチャルミュージアム等を体験してもらったことをレポートにして提出させた。 秋学期 実施有	関西大学
当初は博物館見学を予定していたが、感染者が増えたことによってキャンセルした。	関西学院大学
実施有（ただし、コロナウイルスの影響から参加が難しい学生がいた） 見学先の博物館にご協力いただき、説明の様子を動画撮影させていただき、見学実習に参加できなかった学生に配信した。	岐阜女子大学
博物館資料論 学校以外場所の見学実習は、安全のため残念ながらおこなえませんでした。	京都橋大学

各施設で新たに作成されている動画を検索し、各自で確認するように指導した。その中で、問題点や共感できる点を抜き出し、まとめさせた。	京都産業大学
例年行ってきたクラス単位での見学は中止し、学生各自に見学・報告レポートの作成を課した。	京都精華大学
博物館実習Cで見学実習を実施した。京都国際マンガミュージアムと西宮市大谷記念美術館を訪問した。訪問時は教員・学生ともに訪問2週間前から検温と記録を実施し、当日は各館が定める感染予防策に従い、感染予防に配慮した。	京都文教大学
今期は中止だった	久留米大学
見学実習については実習先のレストランがクローズとなり昼食を食べる所に苦労した。周辺で他に食事が出来る所がなかったり、あっても学生に負担がかからない価格で食事が可能な所ではなかったので、実習先の館と工夫して感染防止処置を行いながら持参した弁当を食べられるように配慮を行った。	九州保健福祉大学
グループでの見学が実施できなかったため、学生が個別に見学し、レポートを提出させた。	県立広島大学
見学実習は実施しなかった。その代用として、受講生には指定した博物館（1年次生）、あるいは受講生自らが選定した博物館（2年次生）のHPを熟覧してもらい、その結果をまとめたレポートをdotCampusを通して提出してもらった。提出されたレポートには、コメントをつけて受講生にフィードバックした。（なお、レポートの内容は、博物館の理念、展示の全体テーマおよび各展示コーナーの概要、来館者サービス、展示やUDの工夫、および総括的な意見・感想などである。）	神戸学院大学
例年実施している以下の見学実習のうち、博物館実習（4回生担当）、博物館資料論（3回生前期）、博物館教育論（3回生前期）、博物館展示論（2回生前期）では実施できなかった。後期開講科目の博物館概論（1回生・後期）、博物館経営論（3回生・後期）、資料保存論（3回生・後期）では、実習生（28人）を午前と午後に分けて2度実施した。	神戸女子大学
見学先に他の団体の予約が入っていないかを確認してから予定を入れた。 また、公共交通機関を利用しないと行けない館は、大学のマイクロバスで学生を引率して見学に行った。	郡山女子大学 短期大学部
見学館と連絡を密にし、感染予防策をとりながら実施した。	皇學館大學
学外施設へのお見学実習はしませんでした。 学内施設のお見学はZOOMを用いて、オンライン受講生に向けて配信しました。	国際基督教大学
実施しませんでした。動画資料を利用した資料保存や資料論の個別事例を紹介しました。	国立音楽大学
施設お見学ができないため、国内外の博物館、美術館を数多く展示室、バックヤード、ワークショップの現場の画像を紹介。実技指導はできない。実際の展示作業やキャプションの作成、展示ガイド。	
お見学実習は、グループでのお見学を実施することはできませんでしたが、その対応策として、個別に博物館のお見学を行わせ、レポート提出後に、教員がその内容に即したコメントを通常よりも多面的に伝えました。 ・お見学研修Iでは、2泊3日に道東の博物館のお見学研修を予定していたが、これを中止し、各自3館以上札幌市内の博物館等をお見学し、その結果をレポートに提出させた。	札幌大学
お見学実習は休館していない館を中心に積極的に行った。三密を避け、消毒、マスク着用を徹底して実施した。	山陽学園大学
地元の浜松市美術館をお見学する際、現地集合・現地解散を徹底して密になるのを避けた。	静岡文化芸術大学
「ぐるっとバス」を利用して課題を出してきたが、課題のお見学館の数を減らし、近隣だけをまわってもよいこととした。	実践女子大学
前期はオンラインで公開していた博物館等のお見学を取り入れた。後期は対策を行ったうえで、通常通りのお見学実習を行った。	就実大学
感染症対策を行いつつ、一度に参加する学生の人数を分散させて実施しました。	白梅学園大学

例年、大学周辺で複数の見学先、見学対象とする展覧会を提示してそこから学生が選択して見学を行い、レポートを提出する形を取っているが、本年度に関しては前期期間は自宅周辺の博物館を見学してもらう形とし、後期期間に関してはいくつか展覧会を指定してそこから見学先を選択し、レポートを提出してもらう形とした。	椋山女学園大学
実施した。見学施設のコロナ感染症対策の状況を把握し、学生の理解を取ったうえで実施した。	成城大学
見学実習は実施できなかった。国内の美術館の展示風景や実施企画展のリリースなどをスライドで紹介し、企画の内容の解説を行い、履修者に検討を促した。	
見学実習はなし	西南学院大学
博物館展示論（後期）…見学希望の館についてアンケートをとり、希望者が5名程度いた2館について、教員と学生の見学日時を合わせ、希望者は教員と博物館見学ができるようにした（実際に来た学生は1名のみ）。また自宅近くの館に出かけることを勧め、任意での見学レポートを課した。	大東文化大学
見学実習はHP上の見学でもよしとしたが、見学の5館を丁寧に比較考察してレポートするよう促した。	多摩美術大学
見学実習は実施しました。ただし団体見学ができないため、個々で入館し、博物館側からの説明を受けることはありませんでした。	千葉経済大学
見学実習としては全体としてのバス見学は中止し、課題を示した上での各自の見学によるレポート提出とした。	中央大学
個人での見学とレポート提出に切り替えました。	
本来は施設見学レポートを提出させていたが、見学は難しく、HPの閲覧にとどめた。	
団体での見学ができないため、学生個人が実習先以外の博物館・美術館等を訪れて、レポートを作成・提出することで対応した。	
原則リモート授業であり、受講生の滞在地が首都圏内に限らないので見学実習は行っていない。	
団体による巡検、史跡見学などはすべて中止して、個人に変更。計画書、実施報告書の作成をゼミ教員の個人指導に切り替えた。	鶴見大学
見学先で話を伺うのが難しかったため、事前学習用の映像素材を提供いただいた上で、分散して見学してレポートを提出させるなどしました。	帝京科学大学
実施しなかった。各自での見学を指示した。	天理大学
博物館の見学実習は、屋外で展開されるエコミュージアムのみとした（マスク、フェイスシールドを全員着用、アルコールを持参し、ことあるごとに手指消毒をおこなったこと）。	東海大学
前期のため、予定がたらず実施できなかった。 ただ緊急事態解除後は、多少、出歩けるようになったため、各自で博物館を選んで見学し、展示批評を発表形式で行った。	東京家政学院大学
前期は不実施、後期は実施 ○見学不実施であった前期については、Zoomにより博物館でPDF公開されている年報を用いた課題を出した。そのことで博物館運営について深く考察する機会を設けた。 ○後期については、見学館の事前許可を得た上で引率を行い、館学芸員からの説明と質疑応答の機会を設け、実際の現場の状況について学生の理解を深める機会とした。	東京女子大学
後期のみ実施。美術館での現地集合とした。	東京造形大学
全員での見学を予定していた部分は、各個人での見学に変更した。 個人での見学は、レポートの締め切りを約6ヶ月延期した。	東京農業大学
例年団体で関西方面で（自由見学あり）実施してきたが、今年は断念。地元東北地付で、各自がそれぞれの時間に実施し、レポートを求めた。	東北学院大学
実施せず	同志社大学

見学実習は実施できなかったが、代わりにリモートで各博物館ホームページの閲覧を行ない、課題に対する回答をMoodleで提出させた。	常磐大学
従来、貸切バスによる見学実習を催行していたが、本年度は大学側が指定した館4館と学生が自由に選択する4館の計8館を各個人見学させ、レポートを基に指導する形を採った。	長崎国際大学
・教員の引率はすべてやめ、全て自主見学（7館）にしてレポート提出させた。 ・コロナ禍により、引率見学は大学博物館を除き、他館は中止とし、各自、身近な博物館を見学することに変更した。大学博物館の見学は、例年2班にわけて1日で実施していたが、今年は8班に分けて2日間にかけて実施した。	奈良大学
見学実習は実施せず、博物館のwebサイトを視聴し、その感想を発表させた。	南山大学
実施しました。 訪問館との綿密なうちあわせ。 2週間前からの検温。 参加できない学生に対する、特別な対応など。 従来夏季休暇中に行うが、展示開催館が限られていたため、後期授業期間中にも見学を行った場合があった。	日本女子大学
密にならないように、学生を3人のグループに分け、Googlemeetを用いて、博物館内の解説を行った。学生と教員は、iPadやスマホにつなげ、教員が解説や質問を受けるようにした。また、見学実習先の学芸員の方には、Zoomを用いて、質疑応答をしていただいた。	日本大学（理工学部）
事前に動画を配信し、予習をした上で、短時間の見学実習を行う。団体での見学ができないため、見学館園に、事前にチケット配布（期間限定）の便宜を図って戴き、個々に見学させた。	日本大学（生物資源科学部）
例年は、日帰り見学と一泊二日の見学（5館）を実施しているが、本年は宿泊を伴う見学実習は中止して、団体見学で県立レベルの館と市立レベルの館を1館ずつと、個人で1館を見学するよう指示した。 団体見学では、館の学芸員の方においてバックヤードを含めた説明と案内をしていただき、大人数での見学を避けるため、午前と午後の2回を設定し、参加人数は15人以下（各回、半分にして二人の学芸員に対応していただくこともあった）とした。受け入れていただいた博物館の学芸員の方には多大なご協力をいただいた。	日本大学（文理学部）
夏期休暇期間・春期休暇期間は悉く感染拡大時期と重なり、持病のある学生もいたため、一度実施を延期したが、結局断念。博物館側も、そもそもバックヤード見学を中止したりもしている。学生には、自分で行ける限りで近隣博物館がどのような感染症対策の下、開館・展示を行っているかを確かめさせ、報告させた。	梅光学院大学
開講せず	羽衣国際大学
見学実習は実施したが、毎年実施している東京国立博物館の見学に関しては取りやめてレポート課題で対応した。その際、過去の実習生の見学風景の写真などを見せるなどした。	阪南大学
3年次後期から4年次前期の授業である。令和元年度の学生については、令和2年2月に3泊4日の予定で東京・千葉の博物館見学実習を予定し、上京したが、博物館が閉館になったため1泊2日で切り上げ、その後は各自で行くことができる場合は博物館に行くとともに、映像・リモートも活用した。令和2年度の学生については、同じく東京・千葉の博物館を予定していたが、断念せざるをえなくなり、バスならびに各自に見学に変えたいと思っている。	比治山大学
見学実習は、前期1回も実施しなかった。その代わりに、ウェブ上で疑似博物館見学をしてもらい、レポートを複数回提出もらった。後期は3回ほど博物館見学を行った。ただし、参加は各学生の判断に委ねた。	福岡大学
感染対策を実施し、通常通りに近い形で行った。	佛教大学
外部博物館の見学実習は、感染拡大の落ち着いた時期に集中して行うようにした。	文化学園大学
見学実習は、団体では行わず、各自見学してレポートを提出させました。	法政大学

実施できなかった	武蔵野音楽大学
毎年楽器工房見学をしていたが、今年度は中止し、オンライン授業に振り替えた。	
見学実習は、各自が展示を見学してレポートを書くという形式で行っているが、休館や見学に制限を持たせた美術館・博物館も多かったことから、例年は20館見学のところ、ノルマの数を減らして取り組ませた。	武蔵野美術大学
5・6月に予定していたが、予定館がすべて休館となり実施できなかった。その対応策として、「これは面白い！と思えるオンライン・ミュージアムを求めて」というテーマで、オンラインで様々な試みをしている館園を各学生が2施設を調査するものとした。各館の概要、コレクションの特徴、オンラインで公開されている内容などを調べ、「オンライン・ミュージアムはオフライン・ミュージアムの代わりとなり得るか」という問いを考察する内容である。	明治大学
ほとんどの見学実習については、リモート対応での代替措置（2で報告したように、過去の引率指導を編集し映像コンテンツとして、グーグルドライブで受講生が視聴できるようにした）で対応した。一部、学内での実習へ代替対応のできるものは、学内実習として実施した。	名城大学
見学実習のみ半年間後ろにずらした以外、従来通りの対面で実施できたため、新しい工夫はしていないが、見学できなかった館に代わり、野外博物館に振り替えたりして、コロナ感染には気を使った。	桃山学院大学
バックヤード見学館のみ教員が引率し履修生全員で見学。それ以外は課題を出して各自見学とした。	山形大学
年度当初予定していた博物館が見学実習不可となったため、コロナ感染状況の推移のなかで、一定の制限のもとで受け入れていただける博物館施設において、当初計画より実施回数を増やし1回の参加学生数を少なくすることで実施した。	立正大学（熊谷キャンパス）
学生個人によって事情がことなるので義務化はできませんでした。授業での映像資料で補填。	和光大学

5. 【館園実習】において、工夫した点や新たな試みについて記してください。 *館園実習ができなかった学生の有無と、できなかった学生への対応策などもご記入ください。	
館園実習は5日が3日に短縮となった館が3館、全部中止となった館が1館あった。これらの学生に対しては、DVD『博物館を支える学芸員の仕事』を見せながら、映像に関わる解説を加えた。また博物館見学およびレポート提出で対応した。	愛知学院大学
例年のように実施した。ただし館によっては規定の時間数に満たない場合があったので、そういう学生には、大学で教員が、代行講義または代行課題などを与えた。	愛知淑徳大学
館園実習ができなかった学生が発生したため、学内施設を利用するなどして補填実習を実施した。	青山学院大学
館園実習については学内での展示活動や資料調査を当てた。	江戸川大学
43名中6名が、館園実習に出ることができなかった。文化庁の通知を受けて4月13日以降、実習受け入れの内諾を得ていた学生6名が受け入れ中止となり、派遣できない状況となった。これら学生については、学内実習で補うこととした。	桜美林大学
例年通り3期に分けて実施する方法を採用した。今年度は実習の説明や展示会用資料の梱包などの場所として従来用いていた教室を止めて、200平方メートルほどの広さのある展示室し、机と椅子の位置にソーシャルディスタンスが確保できる距離を作って実施した。展示などの実習では机と椅子を片付けて広い会場にして対応した。	大阪芸術大学
すべての学生が館園実習を終えることができました。実習を行う現場が密にならないように、受講生を複数のグループに分けて、参加日程を分けるようにしました。	大阪大学
たまたま預かった大量の拓本資料を、人数に対して広めの教室を確保して一斉に実施できたことは良かったのではないかと思う。博物館資料整理の実践でもあったので、学生の評判は上々であったと思う。	大阪大谷大学
館園実習は全受講で実施できたが、受け入りの有無で調整に手間取った。	大谷大学
館園実習ができなかった学生に対する集中実習授業を実施した。	大手前大学

館園実習は全員計画通りに実施することができた。実習に際しては2週間前から検温、体調、行動記録等のチェックを行った。	岡山商科大学
実習不能学生については、彼らを引率して、某教育委員会の協力を得て、まとめて館園（屋外）実習を実施。	岡山理科大学
館園実習については多くが例年通り対面形式で実施されたが、一部の日程でオンラインによるリモート学習の形をとるケースがみられた。	お茶の水女子大学
春学期は、緊急事態宣言が解除されてから、日時を分けて感染対策をしながら対面での実習を開始した。秋学期の実習展は、多人数となる班での活動を取りやめて、個人が展示を企画実施した。	関西大学
実習先決定後又は応募中に中止が決定することが相次ぎ、2館以上に応募する学生が多かった。なんとか実習先を決めることができ、実習ができなかった学生はいなかった。	北里大学
幸いにして、受入先の博物館の尽力により、館園実習ができなかった学生はいない。ただし、通常より、日数を減らしての実施になった学生が3割ほどいた。その学生に対しては、学内の研究所等の所蔵資料の整理、管理実習等を行った。	岐阜女子大学
・博物館実習Ⅲ 実施しない施設があったため、実施して頂ける施設を探し、依頼を行った。 ・博物館資料論 博物館資料館における実習は、これまた安全のため残念ながらおこなえませんでした。一部参観が開始された博物館については、各自の責任で自由に参観するよう指示した。	京都橘大学
本学むすびわぎ館ギャラリーの展示施設において、臨時での館園実習の受け入れ態勢を整え、当初予定していた館園先が受け入れ中止になった学生などを受け入れ、実習を行った。	京都産業大学
全ての実習希望館にて実習を実施することが出来た。 実習2週間前からの体温等の健康チェックリストを作成し、実習生にチェックを依頼した。	京都精華大学
館園実習が中止となった学生が1名いた。学芸員の方にリモート授業をお願いし、講義受講後に美術館を訪問して現場の雰囲気を感じてもらえるように工夫した。また、丸善から出版された「博物館を支える学芸員の仕事」のDVDを視聴し、学芸員の仕事の多様な側面を理解できるように努めた。	京都文教大学
帰省先（県外）の博物館実習を希望していた学生は、近隣の受け入れ可能館で実施した。	久留米大学
館園実習については感染拡大によって実習先として決定していた所が困難になったり、期間が短くなったりした受講生が多かったものの、他館で1日程度の短期間の受け入れを依頼したり、学内で教員が実施している企画展示に参加させたり等でカバーした。何と言っても養成校は実習先との日頃から意見交換を行える環境を制度的に構築していかないといけない事を痛感した。	九州保健福祉大学
感染症対策について、受入館のガイドラインと大学の方針を個別に調整して実施した。	県立広島大学
館園実習（本学では「博物館実習Ⅱ」）は、例年通り実施したが、実習ができなかった学生（1名）、あるいは実習期間が短かった学生（数名）いた。そのため、彼らには、実習の代用として本来受講する予定であった博物館において実施可能な企画展示（案）や教育プログラム（案）を作成してもらい、期限内にdotCampusに提出してもらった。提出されたそれらの（案）は、コメントを付して受講生にフィードバックした。なお、特に全面的に博物館現場で受講できなかった学生（1名）には、博物館現場にて実習をうけた学生の報告会（発表会）において、企画展示（案）を発表してもらった。	神戸学院大学
①館園実習先18館（計28名）のうち、2館（3名と1名）から実習を実施しないとの連絡あり。2館に交渉し、1日でもよいかから博物館で実習の一部を実施してほしいと要望。1館（1名）では、1日のみであったが館園実習の一部を実施していただいた。他の1館（3名）では、館務実習としての受入はできないが、バックヤードなどを案内しながら博物館の課題などのレクチャーと、午後から特別展を見学するという内容で実習生を受け入れていただく。この4名も、館園実習報告をしっかりと提出しており、日程的には十分ではなかったが、中止ではなく、やや強引な依頼にかかわらず実施していただけて良かったと思う。	神戸女子大学
例年より実習時期が後ろ倒しとなったものの、予定していた館すべてでお引き受けいただき10月までに実習を終了できた。地元（県外）で実習した学生は、実習2週間前に帰省し健康観察と外出自粛を求められた。県内で実習を行った学生にもその例を示し、同様に健康観察を記録させ、館からその提出を求められる場合もあることを伝え、行動に注意するよう指導した。	郡山女子大学 短期大学部

全員、館園実習を受けることができた。	皇學館大學
本学では、館園実習を本学の大学博物館湯浅八郎記念館で行うため、問題はありませんでした。	国際基督教大学
館園実習は実施できませんでした。音大における講座のため、動画資料によって浜松その他の音楽博物館の動画情報を共有するを行いました。	国立音楽大学
館園実習は、別に大学側で対応して頂いた。	
館園実習では、希望する博物館に、全ての学生を受け入れていただきました。教員の工夫としては、検温表を配布し、実習の2週間前から体温を記録させ、実習する博物館に提出させたり、感染を防ぐ注意点をまとめて、学生に周知しました。	札幌大学
新たな館園実習館を設定したため、館園実習ができなかった学生は皆無。	山陽学園大学
地元の浜松市美術館、浜松市博物館、秋野不矩美術館は館園実習の受入れが中止となってしまい、実習を希望していた学生は、別の博物館を探さなければならなくなった。大学のある地元で追加で受入れをしてくれた美術館や、学生が故郷の博物館に申し込み、何とか全員が館園実習を受けることができた。	静岡文化芸術大学
実習の2週間前から体温チェックをすること、人混みに行かないこと、手洗い、マスク使用を徹底するように厳重注意をおこなった。おかげで体調不良の学生も出ず、各美術館さんのご努力、また学内資料館の協力のおかげで、全ての学生が館園実習をすることができた。	実践女子大学
緊急事態宣言で混乱していた前期（4月）に、学生ヘリリスクも含めて説明したうえで、館園実習に行きたいかどうかの希望をとった。希望した学生は全員館園実習を行い、希望しなかった学生については土・日曜日等に学内で実習のコマ数を増やして対応した。	就実大学
5日間の実習の内、オンデマンド型の授業で対応可能な内容については遠隔授業の形式を取り、実地での作業を伴う内容に関しては現地で対面で実施した。現地での実習の際は、感染防止対策を行い実習を行った。	椋山女子学園大学
・受講生はそれぞれ館園実習を行った。 ・学生の実習先に連絡し、コロナ感染症対策の状況を把握し、学生にその状況を伝え、注意喚起を図った。	成城大学
実習出来た学生が7割、出来なかった3割の履修者は年度末に学内施設での代替実習を行う予定。	
館園実習ができなかった学生はなし。 当初の予定通りのスケジュールで進めることはできなかったが、実習館園と予定を調整し、後ろ倒して実習を実施していただいた。また外部館園での実習が不可となった学生については、本学の博物館に受け入れていただいた。	西南学院大学
館園実習は、各美術館の動画講座なども積極的に活用した。	多摩美術大学
館園実習は付属の博物館を使い、例年通り行いました。できなかった学生はいませんでした。	千葉経済大学
館園実習ができなかった学生に対しては、学内施設を用いての展示実習を、担当教員が指導しておこなった。	中央大学
大学の近隣で了解をいただいた館園には、教員が直接訪問して学生の実習の様子を確認した。また、遠隔地等の館園には、電話により実習の状況を受入館の担当学芸員の方に伺った。また、受入先が決定しなかった学生には、学内で資料の取り扱い等の実習を行った。	
実習が急遽できなかった学生ないし実習館が期間短縮とした博物館があった。その学生を対象に12月の卒論提出後に補講をして、単位取得を認定した。東京国立博物館の見学、鎌倉国宝館の展示とバックヤード見学。横浜シルク博物館の館園見学のほかに、学内での美術工芸品取り扱い実習を2日間じっした。学生は不足にすすを選Bく、ないし全てに参加して、通常の実習と同様に、実習日誌。報告書を作成し、成績評価を受けた。	鶴見大学
館園実習の内諾を得ながら、先方都合で受け入れができなくなった学生（2名）を対象に、2019年に開設した大学附属ミュージアムにおいて初となる館園実習を実施しました。	帝京科学大学

博物館実習（館園実習：前期・後期の7日間）は、基本的に外部の館園での実習で、コロナ禍であったが断られるところはなかった。一部では、オンライン実習のところはあったが、それぞれの館園で感染防止の工夫をしながらの実習をしていただいた。実習期間が7日間に満たない場合、その日数に応じて館園の見学をさせ、2000字以上のレポート作成・館園の比較を行わせた。実習期間中・前後では、感染対策もあるので、例年より学生・館園との連絡を密にし、緊急事態に備えた。これは、学生の実習態度の向上につながった。本学の博物館実習は、学内実習と館園実習の二つが含まれている。	帝京大学
三密に気を付けて作業を行った。感染の疑いがあり時期を変更した学生はいたが、できなかった学生はいなかった。	天理大学
事前指導、事後指導はすべて遠隔で行ったこと、実習開始2週間前から検温や異常がないかどうかといった体調管理、手指消毒を徹底したこと、実習館園に提出する書類のうち、受講者が自筆で記入しなければならないものは、書類をスキャナで読み込んでファイル形式で対応したこと、実習が中止となった受講者は、学内の施設（博物館相当施設）で実施したこと。	東海大学
基本的にできなかった。あくまでリモートで演習形式の発表をするしかなかった。	東京家政学院大学
コロナにより実習取りやめとなった学生については、学内で代々実習を行った。 ○対象学生が4年生であり、遠方の実家に戻っている（大学付近のアパートを引き払っている）場合が多かったので、遠隔授業を実施した。実習用の教材を送付し、課題成果を写真提出させる形式とした。	東京女子大学
外部機関で受け入れてもらえなかった学生はすべて大学内の附属美術館で受け入れたため、館園実習ができなかった学生はいない。	東京造形大学
4年生計230人、全て館園実習を行うことができた。 実習を中止する館園が多く、新たに受け入れ先を見つけるのが大変だったこともあり、大学付属の博物館で例年以上の人数を受け入れた。実習内容の低下を心配する受け入れ先に対し、今年は特別であり時間を短くすることや、内容が偏ること、遠隔実習になること等は問題ないことを説明して、納得してもらうことが多かった。	東京農業大学
実習受け入れが出来ない館での実習予定者は、大学博物館ですべて受け入れた。	東北学院大学
実施せず	同志社大学
館園実習では、常磐大学博物館学博物館において「キャンパスミュージアム」展の企画運営を行なった。ギャラリートークなど教育普及活動も実施した。受講生全員が学内で館園実習を行なった。	常磐大学
本学の所在地域では、1館から9月頃に受け入れ不可との連絡があり、15名の学生が実習が不可能となった。そこで、教員と地元自治体の文化財課が協力し、自治体が所有する博物館に収蔵されている民具資料の調査および台帳化作業を共同で実施することで、館園実習として位置付けた。	長崎国際大学
・学外での実習は当該施設に全て任じた。学外での実習キャンセルが多発したため、学内博物館の実習回数を例年より2倍に増やし、対応した。 ・大学博物館は、体調不良で参加できなかった学生がいた。実習内容（展示の企画）にそくしてレポートを課した。	奈良大学
館園実習は例年、学内の人類学博物館において行っているが、今年は博物館自体も休館したので、実施していない。	南山大学
作品の接触と、密の状態の発生については、多くの館園で配慮が行き届いていた。 新型コロナウイルスの影響で、実習ができなかった学生は結果としていなかった。	日本女子大学
館園実習先の学芸員の方に解説動画やパネル作成などを、GooglemeetやZoomを用いて、リモートで指導を行っていただいた。また、来館者との接触をさけつつ、博物館における業務を知るため資料庫などの整理も行っていった。	日本大学（理工学部）
博物館実習Ⅱにおいて、対面実習4日、オンデマンド4日で行った。自宅でもできる課題として、コケの乾燥標本作りと資料データ作成、実生木調べなど。	日本大学（生物資源科学部）

予定をしていた館園での実習をできなかった学生もいるが、代替措置として、大学の資料館（博物館相当施設）を利用した資料館実習を行った。	日本大学（文理学部）
今2020年度は、学生が5名と少なかったこともあり、下関市（2名）・山口市（1名）・北九州市（1名）・佐賀市（1名）にあった各実習館においては、館園実習を受け入れていただくことができた。	梅光学院大学
館園実習は実施した。授業内容の工夫という訳ではないが、実習先では普段よりも大きめの会議室を借用した。	阪南大学
館園実習に行く2週間前から体温測定ならびに体調の記入を行い、当該博物館に提出した。途中で風邪で体調が悪くなった学生については、館園実習に行くことができなくなったため、博物館の指示に従い、10日間程度毎日学生から体調を聞き報告した。この学生は、当初の予定通り実習が行えなかったため、残りのものについては学内で行った。	比治山大学
一部の博物館で人数や時期、日数において博物館実習受け入れに制限があったが、博物館実習そのものを休止する博物館はほとんどなく、想像以上に積極的に受け入れていただいた印象もっている。中には、オンラインによる博物館実習を実施するという初めての試みをして下さった施設もあった。例年行っている、実習期間中の挨拶と参観は本年度は受け入れ館とも協議し、休止した館が多かった。	福岡大学
該当館の感染対策に従い、ほぼ通常通りに実施した。	佛教大学
対面での実習が博物館の事情から困難であったため、オンラインでの授業に切り替えた。基本的には同時双方向通信で行ったが、その授業の様子を映像データとして残しておいた。学生はこれを自由に閲覧することができたため、これを用いて復習する者も見られた。	文化学園大学
例年に比べて、受け入れ館は少なかったり、期間の短縮があった。実習10日間に達しない場合は不足分を学内実習することになっているが、今年度は5日間以上の学外実習者については不足分の学内実習は行いませんでした。	法政大学
学芸員実習は、密にならないように少人数で3期にわたって実施し、さらに1期を2班に分けて実施しました。このため、受け入れ館としては、大変な部分もありましたが、実習の質としては、結果的に例年以上にきめ細かく行えたと思います。	武蔵野音楽大学
館園実習は、基本的にはほぼ全ての学生が依頼館に受け入れてもらえたが、1名だけ実習館が決まらなかったため、文化庁の通知の通り、学内での別途の実習プログラムを実施する対応をとった。	武蔵野美術大学
履修学生50名全員が実習をすることができた。受け入れ館は15館。このうち大学併設の博物館の協力が大きかった。また、実習期間が短くなった実習館もあり、その不足時間は学内実習の授業で補った。	明治大学
「館園実習」が受け入れ博物館の都合等で、実施できなかった受講生の一部には、「コロナ禍における本学の学びの工夫」という大テーマで、ICTを活用したコンテンツを自主制作してもらい、それを、他の「館園実習」の報告会で、同僚・先輩たちに向けてプレゼン・質疑応答の場を作り対応した。実習簿も課した。	名城大学
館園実習では希望を早く取り、なるべく実施期間の早い館に振り替えて実施した。尚、本学では実習ができなかった学生は出なかった。	桃山学院大学
今後の博物館活動においてオンラインでの公開等は必須のスキルとなると予測し、博物館実習の館園実習は、本学附属博物館のオンラインコンテンツ作成に切り替えた。	山形大学
希望した学生が実習を終えることができた。 ただ、コロナ禍のなかで、実習先調整に手間取った学生等が数名実習をあきらめるといったことがあった。	立正大学

6. 授業実施において、他に苦慮したことやご意見等があれば記してください。	
リモートの授業では学生の顔を見られず、どのような反応をしているのか分かりづらい。また本来は対面で、参考資料の閲覧や、実物（例えば照度計など）を見せながら説明するものを、実際に触れない、見せられないことで、写真だけになってしまう。学ぶことができる情報量はどうしても減少してしまうことが悩ましい。	愛知学院大学
「実習」という内容を、どうすれば「リモート授業」でおこなえるのか、はなはだ疑問である。	愛知淑徳大学
実習系科目の感染症拡大防止策を採りながらの対面式授業とオンライン授業の並行は、事前準備や授業時の教員負担が増大する。学生への配慮という点では両形式の並行は望ましいが、必要な人員や機材等の配備が行われなければ、継続が容易ではないことを実感した。	青山学院大学
授業はリモートと対面の同時並行で苦慮した。教室が分散されたため、10分間の休憩時間で遠い建屋まで移動しなければならなかった。その上、機器の設置や接続（PC 2台、webカメラとパワポ投影など）、確認などで手間取り、授業の始業時間に間に合わせるのは大変だった。	茨城キリスト教大学
学生向けのガイダンスもすべてオンラインとなったため、とくに実習のやり取りなどにおいて、意思疎通を図るのが困難なケースもあった。また、これまで紙が中心だった手続き書類（登録票・申請書類等）も、すべてオンライン化を図った。	桜美林大学
通常の授業はリモートに替えて成り立つ場合が多いが、作品の扱いについては、学生の習熟度などに個人差があり、個々への対応や指導が十分にできないという困難が伴う。実習は対面でないと効果が上がらないことを強く感じた。	大阪芸術大学
とにかくマスクをつけていることで話がしにくいこと、距離をおかないといけないことから、接近しての手作業の指導などはかなり苦勞した。	大阪大谷大学
見学できない館があるなど、十分授業目的を達せられない場合があった。	大手前大学
すべてがリモート授業でなく、ある程度対面授業を行うことができたので、基本的な実技実習や見学実習、館園実習を行うことができたところはよかった。すべてがリモートとなると、実習としての成果は望めないと思う。	岡山商科大学
学生の様子が見えにくい。	岡山理科大学
博物館実習は作業を中心とした学習が多いため、登校が制限された時期は授業を実施できず対応策の検討が非常に難しかった。Zoom等を利用したオンラインでの講義は実習のこの授業には向いておらず、今後こういったケースに対してどのように対応すべきかさらに検討する必要があると感じた。	お茶の水女子大学
博物館実習については、今回さまざまな工夫をして授業をおこない、展示実習まで実施したが、対面授業の重要性をあらためて認識した。実物資料に触れて現地に立つことで得られるものの大きさを感じている。	関西大学
授業の一環として博物館や美術館で見学会を行いたいのが現状では難しいため、博物館・美術館HPをより充実していただきたい。	関西学院大学
・ウェブサイトや提供されたデジタルアーカイブのバーチャルだけでは、現場を理解させるのが困難であった。この状態が来年度も継続することが予測されることから、バーチャルで現場の学芸員からレクを受けるなどの対策を講じたい。 ・同時配信では、学生の表情が見づらく、戸惑った。また、スマートフォンのみの学生や通信環境に問題がある学生への対応が教員個人ではできない。	岐阜女子大学

<p>今回は、学期の始まりに突然に、主要都道府県の緊急事態宣言の発出とともに、大学への入構も禁止され、未経験の授業形態に対する準備や相談をおこなう時間もほとんどない状況下で、これまでにない新しい授業の取り組みをしなければならなくなったため、その対応は大変困難であった。</p> <p>また、6月中旬に一部対面授業の解禁がおこなわれたが、遠隔学習ツールであるKT-Noteを使って授業をおこなうことを、最初に受講者に提示しており、受講者も多様な学部や学科で学年層も異なっていたので、授業形態の変更はおこなわず、最後までKT-Noteで運営することとした。その結果、博物館の参観や見学など、興味ある体験をおこなうことが基本的にできなかった。残念です。</p> <p>今回の授業経験は、来年度に対面授業をおこなううえでも、有効な授業運営の経験になると思うが、筆者は定年のため、この大学の教育空間とは決別しなければならず、この経験の反省や検証、ひいては教育の改良をおこなうことができない。これまた残念なことである。</p> <p>しかし、大学教育には対面教育が不可欠だと思う。遠隔授業形態は教育のための「窓」にはなるかもしれないが、それをいくら磨いても、対面授業なしでは限界があるだろう。また、大学への入構禁止という状況下で、十分な教育をおこなうことは、やはり難しいのではないかとも思う。</p>	京都橘大学
<p>春学期は全てオンライン授業であったことから、学生とのコミュニケーションが取りにくかった。</p> <p>また、昨年12月に館園実習の反省会を実施したが、今年度はイレギュラーなことも多く、学生の中には、消化仕切れていない学生がいるのではないかと感じている。</p>	京都産業大学
<p>リモート授業については授業の質を落とさないように苦慮した。</p>	京都精華大学
<p>対面での実習が困難であった。</p>	久留米大学
<p>学内の問題ではあるが、休校がいきなり入る事によって代替となる補講日の調整や、教室確保が大変であった。</p>	九州保健福祉大学
<p>資料取扱いについては、動画のみでは学修が不十分なため、感染症対策を施した上で、対面実習を行うこととした。</p>	県立広島大学
<p>実習（博物館実習、館園実習）は、本来、受講生自身が現場にてモノを取り扱ってこそ意味がある。それにもかかわらず、受講生の中に遠隔授業をせざるを得なかった（あるいは遠隔授業を希望した）学生がおり、彼らがモノをまったく扱うことがなかったことには忸怩たるものがある。</p> <p>なお、オンデマンドで行った授業では、受講生からの苦情は皆無であった。講義内容を丁寧の説明し、途中で自分で調べてみようのコーナーや、授業内容が半分程度終わった時点で休憩コーナーを作ってみたことが関係しているのかもしれない。</p>	神戸学院大学
<p>例年通りではない状況下で、いかにして実習を実施するかということの試行錯誤の過程を実習生と共有しながら、前述したような工夫をこらしてやり遂げたことで、危機対応の適応力と、協働して柔軟にやりとげる協調性、いわば学芸員に必要な力を養うことができたのではないかと思う。</p>	神戸女子大学
<p>毎年実施している学外展示実習も、例年通り受け入れていただき実施できたことに深く感謝している。</p>	郡山女子大学 短期大学部
<p>資料の取り扱い方などはリモートでは行えず、対面となっても学生同士の距離を保つなど、実習授業の実施に配慮した。</p>	皇學館大學
<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドで行ったため、対面の学生もオンラインの学生も同等の学びと体験ができるように工夫しました。 ・ハイブリッド開講の場合、オンラインと対面の学生両方に同時に対応するため、通常よりもTAや助手の協力が必須です。 	国際基督教大学
<p>教材の量は試行錯誤だった。学生が学習に困難を感じていないかつかみにくかった。</p> <p>対面講義ではないため、学生の理解がどこまで進んでいるのかを確認するのに困難が伴いました。</p> <p>学芸員資格取得の科目であるため、学生がオンラインになったことで、授業レベルが低くなったと思われるように、教材を充実させて提供した。対話型の授業時間内で、講義して教材を配布する場合は、カラーで出力したものを配布することができない場合がある。メールでの質問のやり取りや、自己紹介文を書いてもらうことで、個別に対応することができた。</p>	国立音楽大学

オンライン配信、オンデマンド配信に対応するための環境づくりを教員個人のスキルで構築しなければならなかったこと・複数人教員による授業で、教員間のコンピュータースキルの差によって負担が一部に集中したこと	駒澤大学
大学で感染者が発生した際に、全学的な休講措置や遠隔授業へと切り替えとなり、スケジュールの調整に苦慮しました。また学生の精神的な疲れや体調不良による欠席が、通年より多く、そのフォローをどうするか、対応が難しい1年となりました。	札幌大学
前期は完全オンラインだったため、特に博物館実習を講義で行わなければならない、資料の扱いの説明だけで、実技ができなかった。オンラインだと学生の顔が見えないことがストレスで、コミュニケーションが取れずに苦労した。特にリアルタイムオンラインの場合、学生はアイコンやアバター姿で、表情も全く見えず、反応もない状態はやり難かった。	静岡文化芸術大学
学内実習は、前期と後期とに分け、同じ内容を4クラスでおこなっている。しかし前期のスタート時点で、学事日程がなかなか定まらなかったため、前期授業が後期と同じ内容で十分おこなえるかどうか気をもんだが、結局学事日程が後ろ倒しになったので、前期について対面実習を含め予定通り実施することができた。後期については、前半に対面授業を設定し、感染拡大状況になっている年末以降はオンデマンドで対応している。	実践女子大学
前期は基本的に全てオンライン授業になったが、大学側と協議をして6月から一部対面授業を再開した。これらの調整作業や、実際に対面授業を行う際の心労（手指や道具の消毒から、決して感染者を出してはいけないというプレッシャー等）は、かなりのものであった。	就実大学
映像を配信する際の、著作権問題（特に公衆送信権に関わること）	椋山女学園大学
受講生から、直に質問を受けられないのは、もどかしかった。積極的な学生は、課題の回答に、質問や意見を付してきたので、それには丁寧な回答をした。	成城大学
学生にとっては自分の都合に合わせて視聴でき、何回も復習できるので良い方法だったと感じている。	
・拓本、実測図の作成等、学生に近寄って指導することができなかった。 ・リモートの授業では、学生に対し細やかな指導ができない。	
教員・学生両方のネット環境によって、音声がか切れるといった不具合が生じることがあった。	
実習はパフォーマンスでの技術伝習が基本になるので、オンライン授業では限界があると感じた。	
外部の館園や学芸員の先生との予定調整等に苦慮した。	西南学院大学
この方式が従来よりも優れているので、平常時でも採用すべき	大東文化大学
対面で受講出来なかった学生への対応に苦慮した。特に作品の取り扱い映像で見ても覚えないので、来年度それらの学生には非公式でも補講をしたいと考えている。	
学生自身が、コロナへの不安から対面実習を避けようとするケースが僅かにあった。	多摩美術大学
館園実習及び後期の博物館実務実習において、どうしても学生間が密になることが問題であったと思います。逆にハイブリット式の実習では結局教員が何をしているのか伝わらず、実習は対面のみで可能であることを思い知らされました。	千葉経済大学
担当教員間の連絡・調整の機能を果たす担当者会議を実地に開くことができず、個別に連絡調整としたため、十分に調整できない分があった。教員によっては通信環境により、リモートでの講義において若干の支障がある場合も見られた。	中央大学
・例年は展示の企画から作成・掲出までをグループワークで疑似体験させることにより、展示制作をより具体的に考えさせる効果があったが、それができず学習目標に到達できていない感があった。 ・学生同士の討議や意見交換がオンラインでは難しい。 ・講師側の準備作業が例年に比べて大幅に増加した。	
今後の社会情勢により、館園実習の受け入れ先の確保が心配である。	

授業の準備、学生の質疑へのフォロー等従来よりも授業の準備に時間を要したが、かけた時間の割に満足いく結果が出せたかというところでもないというのが残念だった。	
リモート授業だと、プレゼン資料中心になるため、板書の必要性がほぼなくなる。そのため、口頭説明や実演の時間を増やさなければならず、ペース配分にも苦慮した。	
感染対策は、どの程度厳密にするのか？手洗い、検温など実習でも毎日報告を記入させたが自己申告であり不安であった。教室の講義はすべてリモートないしオンラインとしたが教員・学生と主に今年度終了頃ようやく利用法が慣れてきた。	鶴見大学
画像編集ソフトの利用方法などをオンラインで指導することが難しく、2020年度は実施しなかった	帝京大学
たまたま担当する学芸員過程の科目で、対面とオンラインの2重授業はなかったが、別の座学の科目では一つの授業を対面とオンラインで行った。機器操作能力・設備・サポーターがそろわないと、十分な教育効果は望めないと理解された。	
実技が身についたかどうか判断が難しい。	天理大学
受講者との連絡がつきにくいこと。実習館園のご都合で予定が変更になったことに伴う作業。フェイスシールド、アルコールの調達。学芸員課程を開講する学部学科との連絡。	東海大学
実習は基本は対面であるべきと改めて感じている 遠隔で概要までは対応できるが、各自の経験という面ではどうしても補いきれなかった。	東京家政学院大学
○遠隔を想定した教材・授業構成を用意していなかったため、そのための準備作業に大幅な時間を必要とした。 ○教材を各学生宅に送付するための準備作業に大幅な時間を必要とした。	東京女子大学
学生の大学内への入構許可の緩和が、どの段階でどの程度行われるかの見通しが立たなかったため、授業計画の立案に困難があった。	東京造形大学
対面授業の場合、時短が必要だったので、詰込みでやらなければならず、余裕をもって教えられなかった。 3密を防ぐため、グループ分けが必要であり、多くの教室を確保することが容易ではなかった。また、資料に触れられない期間は、特に技術に関しての伝達が難しかった。また、実物資料をみれない、触れない事で、資料の持つ根源的な魅力が伝わらないのではないかという、焦りは強く感じた。学生同士の会話や討論の場がほとんど持てなかったことは残念だった。	東京農業大学
実習をリモートで行うことはきわめて困難で、学習効果も望めない。実習の実施方法が今後の大きな課題である。	東北学院大学
博物館資料について、とくに「モノ」として観察学習に関し、苦慮した。対面授業ができない場合、博物館や美術館における自主学習の方法を確立する必要があるとおもう。	東北福祉大学
コロナ禍のオンライン化で教材準備等例年より時間がかかったが、対面とリモートの併用が出来たのは良かった。一か月に一度でも教室で顔を合わせ、会話することにより、学生との距離は随分と近くなり、クラスの雰囲気を掴むことができた。それがリモートで講義する際にも役に立ったと思う。	同志社大学
対面授業よりも進度が早く、教材準備が大変だったのと、大人数のため、学生の毎回のコメントを読んで採点するのが大変だった。	
ミュージアム実習では、受講生を班別に分けて行なったが、受講生同士のコミュニケーションが十分に取れないこともあった。講義科目も実習科目も学生が前向きな気持ちになれるように学芸員(クラトル、ケアする人)の仕事の楽しさや社会的意義をとりあげるように心掛けた。	常磐大学
博物館実習は、遠隔では効果的な授業を行うことが難しかった。次年度に向けて、遠隔授業に対応した博物館実習教材の模索が必要と考える。	長崎国際大学

<p>・学外での館園実習（キャンセル）の対応に苦労した。</p> <p>【博物館資料論／博物館教育論】授業はリモートであり、教員は表情や生身の言葉で博物館についての「思い」を十分に伝えることができなかった。</p> <p>【博物館展示論】録画配信授業により一方通行の講義となり、生徒の反応をみることができなかった。</p> <p>【生涯学習概論】生涯学習関連施設に関する映像資料がインターネット上に少なく、リモート授業であったことも相俟って、なかなか受講生とイメージを共有することができなかった。気軽にインターネットからアクセスできる映像資料が増えると良いと思った。</p> <p>【博物館情報・メディア論】1クラスの受講者数223名を対象として、出席管理とリアクションペーパーの点検、成績評価は私の能力をはるかに超える仕事量であった。</p>	奈良大学
博物館実習が3単位なので、通常の時間割の中で45回分の授業時間を確保することが難しい。	南山大学
<p>実習先の決定が、遅くなった点が、学生の修学に大きく影響した。</p> <p>また、実習日程も手探りで組まれた館が多く、実習の期間が（日数ではなく）長くなった館が散見された。このことは、実習可能な日程を博物館の側でも模索しながら対応していただけたことを示していると思う。</p>	日本女子大学
<p>実習には、対面でしかできないことがあり、コロナ禍での急な対応は、学生の不満があったが、オンラインの同時双方向で、学生との対話を増やし、チャットやブレイクアウトルームやクラスルームなどを多用し、学生にとって、参加型の授業になるようにした。人と接する空気感や、実習などの全体を把握する作業が必要な場合には、無理がある。</p>	日本大学（理工学部）
<p>課題の量が多く、受講人数も多いため、課題の評価が困難。</p> <p>対面テストができないため、理解度の評価が難しい。このため、評価がゆるくなりがちで、館外実習希望者の増加してしまう可能性が高い。今後、受け入れて戴く館が見つからない可能性がある。</p>	日本大学（生物資源科学部）
<p>リモートをはじめとする遠隔授業では、各回の資料の作成、課題の確認・採点に多大な時間を割かれた。</p> <p>博物館学という性格上、実際に現場を見て、自分で資料や機器に触れることが不可欠であるので、実習関係の授業は、感染防止策を徹底し、できる限り対面授業を実施していきたいと考えている。</p>	日本大学（文理学部）
<p>実習は、直接指導・体験が基本と思われるが、それをリモートでしなければならぬだけでなく、所属大学がリモートと対面をころころ切り替えること、感染拡大の波によって、計画を立ててもろくに実施できない点にはやはり苦しんだ。果たせていないが、海外や遠隔地域の学芸員にリモートでバックヤード等の案内・解説をしてもらってはという意見が出されたことがあった。そのようなこともできる環境・制度が広く整備されると良いか。</p>	梅光学院大学
博物館資料論と博物館展示論では、毎年2コマないし3コマ、美術品輸送業者のスタッフに来ていただき、資料や作品の取り扱い、梱包、展示など実際的な授業を行っているが、今年度はそれも休止せざるをえなかった。	福岡大学
とくに春学期は実質的に実習・実技の授業は行えず、資料・動画の配信のみなので、実地の実習作業をはならなかった。	佛教大学
館園実習において、リモート化できない要素がいくつかあり、これをどういった手段で代替するかに苦慮した。	文化学園大学
<p>やはり受講生の表情や反応は対面時に比べて把握できなくて、始めて最初の頃はだいぶ戸惑った。一方で、受講生は授業で紹介したサイトなどにすぐアクセスして、内容の復習・確認（さらにはその事業に参加する者もいた）を行っている様子が徐々に増えて（授業後に提出されるリアクションペーパーで知ることができた：提出期間を授業後2～3日まで可としたため、こうした動きが多く届いたのは、その場で提出を受ける対面授業ではあり得なかった）、PCを介した授業の可能性（メリット）も感じた。</p>	法政大学
とくに、著作権による制限の範囲を見極めることが、難しかった。また、受講生の総数は30名程であったため、各回のフィードバックを実践できたが、その範囲を超えると、週の中でタイムテーブルを確保し、本務との折り合いをつけていくことが難しくなる。	
zoomによる講義の前にメールで質問を事前に出すように促したが、質問がほとんどない。	
学生からの質問が対面授業に比べて少なかった。	

<p>従来の対面型授業は配付資料の一部を空欄としておき、パワーポイント資料により提示した内容および口頭で補足した内容を受講学生が記録する形式で進めていたが、学習資料配信型としたことでこれらの作業を前提とした授業進行が困難となった。</p> <p>当初は空欄を埋めた資料を配付する形式としたが、受講者アンケートでは、学習資料を読み終わるまでに必要とする時間が授業時間の半分に満たないと回答が多く（上述の受講学生がパワーポイント資料の内容などを記録する時間や、授業内で資料を読み上げる時間がなくなったためと思われる）、引用資料を増やす、あるいは説明に際しての事例を増やす等の対応を取った。</p> <p>なお、授業実施者が遠隔授業の配信システムに不慣れだったこともあり、あるいはパワーポイント利用型の授業もできた可能性があることを付記しておく。</p>	<p>宮城学院女子大学</p>
<p>博物館概論では履修者のやる気をそながないよう、教科書だけではなく、3回に1回程度、さまざまな博物館のホームページやウェブサイトを視聴してもらい、興味を喚起するよう努めたつもりだが、どこまで興味を持ってもらえたかは不明。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・寒気が厳しい冬季に入ってから窓の開放は、ある程度控えざるを得なかった。 ・学生を前方の席に集中させることができなかつたため、スクリーン上に映し出された画像や文字資料などの視認に困難をきたす場合があった。 ・小グループに分かれてのディスカッションなどができず、個々人が主体的に問題意識を深める機会を十分に提供できなかった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・対面ではなかつたので、学生の取り組み姿勢の評価が難しかった。 ・フィードバックのための資料作成に多大な時間を要した。 ・不慣れなためか動画作成や教材作成に多大な時間を要した。 	
<p>実際にどこかの博物館を訪問し、学習プログラムについてのレポートを書かせることを課題と予定していたが、現在の状況で開館している館が少なかつたり、開館していても学習プログラムを行っている館がなかつたり等、また、コロナ感染が心配で外出自体に不安を感じている学生もいるため、実践的な取組等の制限が大きく、とても残念だった。</p>	
<p>当初は対面型の授業での実施を予定していましたが、聴講希望者数が多く、教室のキャパシティの関係で急遽リモートで行うこととなりました。リモートの決定から、1回目の授業までの準備期間が短く、授業方法を決めて学生に周知することがうまくできませんでした。そのため、学生からは授業実施方法や情報提示の在り方などについて苦情を受けることが多く、申し訳なく感じました。全員が平等に授業内容を受け取ることができる方法として、授業は大学からの資料ももとに資料配布型で実施しましたが、毎回提出される課題だけから学生の反応を捉えることは難しく、授業の在り方として有効であったのかはよくわかりませんでした。</p> <p>また授業資料作成の際、画像などを使った方がよいと思うことはありましたが、学生がどのような媒体で資料を見るのか（スマホか、タブレットか、パソコンか）、配布資料をどのように保管・使用するのかなどがわかりませんでした。そのため、画像の大きさや個人的に撮影した画像などの使用に迷うことが多く、各施設のホームページなどにアクセスして各自に追加情報を入手してもらうような形での情報提示となってしまいました。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市博物館での見学ができなかつた。コロナ対応の閉館、ガラス落下による再閉館、受け入れ人数の制限、さらには、移動そのものに感染の危険を考えざるを得なかつた。 ・「展示論」ではあるが、見せる側の人たちに触れる体験は重要だと考え、例年博物館見学を入れていた。今年は代わりにリモートでゲストとつなぎ、こちらから提示するテキストがユーザー想定によってどう変わるか、ライブパフォーマンスを行った。学生たちの反応も良かった。今後も有効な手段だと考える。 ・大学から視聴すべしというzoom会議のお知らせがあり、実際に視聴した。深夜に更新されるお知らせなども含め、大学の苦勞はいかばかりかと拝察するものの、非常勤にとって、本業の時間を取られるのはつらかつた。 	
<p>全体として、経済的な負担につながっていた。</p> <p>※後期幸いにして対面授業が手出来たが、自分としては「リアルな博物館の意味」について再考することが課題となる。</p>	

対面授業となった実習では「三密」を防ぐため苦慮することがあった。 そのために、 ・私の声はできる限り小さくした。 ・換気のための実習室のドア、窓の開閉には注意した。授業の最後には全員で窓とドアを閉める作業をし、履修者にも常に「三密」回避を意識してもらうように心掛けた。 ・カメラや美術作品を消毒することはできないので、取り扱い作業の終了時には手洗い、消毒を徹底してもらった。夏場はてのひらだけでなく、肘先から洗うよう指示した。実習が終わると昼食の時間となるので、毎回くどいくらいに注意した。	
資料の取り扱いなど、実習系のはリモートでは厳しく思いました。	武蔵野音楽大学
2020年度の博物館概論授業は、オンライン授業の導入が決まったばかり時期であったため、まずは授業をなんとか配信する、ということに全てのリソースが払われた、というのが実情である。むしろ、受講学生がそのような状況にもかかわらず、課題提出などをきっちりと対応し、おのおのの自覚の高さを目の当たりしたことが、講師としては最大の収穫であった。	
2021年度も、博物館実習以外の全ての授業がオンライン授業での対応を決定している。今年度は、オンラインを用いた新たなノウハウを獲得したことから、さらに充実した授業の構成に努力したい。一方で、対面授業ができるようになった段階には、オンライン授業での良いところを、対面授業に導入するために、いっそう教材や授業構成を研究していきたい。	武蔵野美術大学
修学へのモチベーションを下げたり体調を崩したりする学生が例年よりも多くみられた。対面で相談にのることも難しく、もどかしい思いであった。	明治大学
本学の場合、「教職課程」を同時に履修している履修生も一部いて、教育実習の実施時期の変更への対応で、「館実実習」への取り組みが十分にできなかった学生もいた。	名城大学
やはり学芸員課程の授業というのは対面でじっくりやるのが一番良いことであるのは再認識できたが、対面でやっていない分、学生に緊張感がないものが多数出た。特に、見学実習では遅刻者が大量に出て、相手の館にも多大なご迷惑をおかけした。	桃山学院大学
リモートをどのような方法で行うか、事務局とも相談したが、最も良い方法を検討する余裕もなく、やりながらの感じがあった	山形県立米沢女子短期大学
オンラインを通じて、対面授業とかわりないようコンテンツを工夫する手間。	和光大学
オンライン授業のため、板書に費やす時間が無くなったため、最初のころはペース配分をつかむのに苦慮した。	民間企業に所属

7. 講義科目（博物館概論などの「博物館に関する科目」）の扱いや運営において、苦慮した点や新たに試みたこと等があれば記してください。	
春学期は当初対面授業が認められなかったため、授業を春学期後半と秋学期に延期した。	愛知学院大学
理論的には対面でもリモートでも同じであるが、対面の方が質問しやすい、といった声がある。逆にリモート授業（オンデマンド）だと、聞き逃した箇所を何回も繰り返して聞くことができる、という声もあった。	愛知淑徳大学
資格取得のための必修科目であるため、講義系科目については、遠隔授業（オンデマンド）で実施できるものについては遠隔授業に切り替えて実施した。対面授業でしか実施できない科目については、開講期を後期に変更するなどの対応も行った。 また、緊急事態宣言の発出により前期授業開始日が遅れたため15回の授業回数を確保してもらうため、授業担当者には補講や課題などにより不足する分を補完していただいた。	
学内で行われている通常の科目と同様、教室内の密を避けるなどの対応を行い、感染症拡大防止に努めました。	茨城キリスト教大学
テレビ会議システム（Google Meet）を利用したリアルタイム配信での授業、リアルタイム配信＋隔週対面授業、オンデマンド配信又は、授業内容を理解した上でレポート等を提出させる授業方法の実施を行った。	江戸川大学

すべてオンラインで授業を開講した。全学でオンライン上にバーチャルキャンパスを構築しZOOMによる授業を行った。	桜美林大学
講義科目は5月より遠隔授業を開始した。感染状況が落ち着いた12月より一部対面授業を開始したが、感染者数増加に伴い遠隔授業に変更した。 本学では、今年度より新しい教学システム（Web）の運営が始まり、伝達事項や授業資料や課題をWeb配信できたが、当初は使用方法など教員、学生への周知など苦労した。	大阪芸術大学
本学においては、今年度前期は全科目を遠隔授業とし、後期は遠隔授業と対面授業（一部遠隔と対面の混合を含む）により実施しました。遠隔授業の実施方法については、講義資料をweb上に掲載しそのうえで期日までに課題を提出させるケース、zoom等の双方向型、動画配信（オンデマンド型）等、さまざまな方法で授業を行いました。	大阪市立大学
今年度、講義科目についてはオンデマンド授業・同時双方向型授業にて実施した。 その際、学生個人の情報機器・環境の把握と教員の授業で必要とする情報機器・環境の把握、そして、その差をうめる方策を検討することに大変時間を要し、難しさを感じた。	大阪大谷大学
史料調査等に係る内容を扱う際、実習室として使用する部屋が密な状態になること。史料保存のため、通常教室と同じような換気、パーテーション設置では対応出来ないため対応に苦慮した。	大谷大学
各講義科目については、それぞれの担当教員が本学の「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」に沿って、授業を実施した。なお、団体見学ができないことから、受講者数の多い「博物館概論」などでは見学を取り止めた。	大手前大学
本学では、学芸員課程の学生は実習費等を納入する必要があるが、その納入方法を振込等に切り替えた。	岡山商科大学
Zoomによるオンラインのライブ配信形式での授業となった。	お茶の水女子大学
2020年度の学芸員課程に係る講義科目は遠隔授業となった。 授業開始時に遠隔授業実施の環境が整わない先生がおり、事務局でサポートした。	神奈川大学
春学期はZoom等遠隔授業で実施したため、各担当教員が教材準備等の対応をした。秋学期は原則対面授業で、換気や飛沫対策等を徹底して実施した。	関西大学
非常勤講師が多いため、遠隔授業のツール（Zoom）を利用をお願いするのが大変だった。	北里大学
授業形態について、前期はオンデマンド式や課題掲出型授業がおこなわれた。 後期は対面式授業となり、下記の対応方針が定められた。 ●入構前の確認 次の場合は、大学に入構不可。周りの方の安全を守るためにも、自宅休養を徹底するよう指示。 ①陽性または濃厚接触者と診断された ②同居家族が濃厚接触者であり、検査結果待ち ③37℃以上の発熱がある ④風邪のような症状咳、鼻水、喉の痛み、息苦しさ、強いだるさ等）がある ⑤海外から帰国して2週間以内 上記に該当した場合は、届出フォームより報告を提出させる。	京都橘大学
春学期中はオンライン授業により、電子データ等以外の配付物等を別途郵送しなければいけないことが発生した。予算面でも手間の面においても例年より負担は大きかった。	京都産業大学
急きょ遠隔授業用のシステムを導入して、リモート授業に対応した。	京都精華大学
講義科目は原則すべてオンデマンドで行い、対応が難しかった一部の春学期科目は開講時期を秋学期に変更した。	京都文教大学
本学では前期は全面遠隔授業、後期はハイブリッド型授業となったため、最も対応が大変だったのは授業担当の先生方であるが、PC操作に習熟していない教員及び学生の補助（ZOOMの接続やOneDribveの設定等）が負担であった。	神戸学院大学

<p>本学ではすでに授業支援システムが構築されていたため、それを利用したオンライン授業となった。</p> <p>授業担当者にはそれぞれにご苦労いただきながら初めてのオンライン授業を試みたわけだが、特に大きなトラブルもなく授業を行えた。</p>	郡山女子大学 短期大学部
<p>講義科目について、オンラインのみの授業、対面式とオンラインを組み合わせた授業を実施した。</p>	皇學館大學
<p>講義科目は、Google Classroomを活用したオンライン授業を行い、土曜日にも補講を行い予定通りの回数の授業を実施しました。</p>	国立音楽大学
<p>オンライン授業のための教材を作成し、アップロードする時間が、1回100枚作成するだけで、1日かかる。</p> <p>全15回分を準備する時間と、より質の高い教材づくりが大変でした。動画はデータ量が多くなり、4Gでは遅いのと、学生が所有するPC環境でも教材へのアクセスが変わることから、今後のインフラ整備を国の予算で、教育の公平さのために、すすめてもらうことを望みます。</p>	
<p>講義科目は、ほぼすべてウェブとしたので、新たな作成に相当の時間がかかった。</p>	山陽学園大学
<p>資格科目であるため、出席や授業への積極的な参加を重視してきたが、当初は学生の通信環境への配慮からオンデマンド中心であったため、その部分をどうみるかが難しかった。大学が「manaba」というオンラインシステムを使用しているため、各教員がこれに慣れてくださったことで次第にうまく実施できるようになった。もともと課題を出してディスカッションする形式の授業では、オンデマンド、オンラインでも手応えを感じたという声を担当教員からいただいた。</p>	実践女子大学
<p>博物館に関する科目に限っては、特に苦慮した点や新たな試みの実施はありません。</p>	白梅学園大学
<p>「博物館に関する科目」に限らず、特に前期は授業開始時期の繰り下げ、全面的な遠隔授業の切り替え等、全般的に新型コロナウイルス感染症対策の対応に苦慮しました。</p> <p>後期は対面と遠隔を組み合わせ、対面授業の際にはマスク着用・検温・手指消毒等の感染症対策をしたうえで実施いたしました。</p>	相山女学園大学
<p>非常勤の先生にお願いしている科目も多かったため、春学期のオンライン転換時には情報共有等に苦慮した</p>	大正大学
<p>博物館概論は博物館実習受講のために事前履修科目としているが、未履修等もあり、履修指導には苦慮している。</p>	玉川大学
<p>オンデマンド講義としたので、学生の戸惑いや苦情、問い合わせ対応（とそのフロー策定）などに追われた。</p>	多摩美術大学
<p>講義科目は前期は全てオンラインで行いました。後期は対面も一部行いましたが、期末試験を実施できず、対面でありながら、オンラインを使ったレポート提出を急遽行うことになりました。</p>	千葉経済大学
<p>講義そのものについては、それほど大きな苦労はなかったが、オンデマンド型での実施となったため、毎回の課題と教材のバランスや、小テストと授業の順序を反転させるなどの工夫を行った。</p>	中央大学
<p>資格課程科目に限らず学部講義科目すべてにおいてですが、オンライン授業の環境整備、学生・教員サポートを実施しました。</p>	
<p>序業では、自主的に博物館見学を勧めて、あるいは見学レポートを前年までは課していたが今年度は躊躇してネットでの調査・研究を主にさせたが、本来は実際に現地・現場を見てほしい。</p>	鶴見大学
<p>博物館実習（学内）における対面実習の実施時（9月）には、対象の学生1人1人に検温と問診を行ないました。なお、後期からは授業全般の対面化を行なったので、この措置は縮小しています。</p>	帝京科学大学
<p>遠隔授業に対応するための準備や、対面授業の際の教室変更などに苦慮しました。</p>	天理大学
<p>リモートでは、双方向のやり取りが可能ではあるものの、スムーズにはしにくい そのため、一方的な講義になりやすい</p>	東京家政学院 大学
<p>LMSやZoomを使用した、オンラインでの授業が行えるよう準備した。</p>	
<p>学芸員課程の講義科目については大学の方針で、2020年度は全て遠隔で実施した。</p>	東京女子大学

全て遠隔実施に変更したことにより、動画配信または資料配布等で運営していた。教員の授業準備（動画撮影等）を事務職員がサポートすることがあった。	東京造形大学
実習科目をオンライン授業でどのようにカバーできるか。	東京都立大学
資料配布、遠隔対応に時間がかかった。	東京農業大学
リモートでの講義は学生の顔が見えず、反応が分からないので講義しにくいのが実感である。	東北学院大学
リモート授業のため、教員と学生の双方に負担が大きかったように思える。	常磐大学
(前期) 全ての専門科目および選択科目について、WEB授業で実施。 (後期) 専門科目および選択科目については、受講者数が50名を超える場合はWEB授業、それ以内であれば対面授業で実施。	奈良大学
当初はオンライン授業になじむのが大変だったし、非常勤の先生方は苦勞されていた。	南山大学
講義科目については、オンライン授業といたしました。	日本女子大学
講義科目は原則オンライン授業としたため、担当教員においては、Zoom等を用いて同時双方向の授業も試みてもらった。	日本大学（理工学部）
学内での人数制限があるため、授業形態は基本的にすべてオンデマンドで行った。	日本大学（生物資源科学部）
遠隔授業の試みは初であり、そのため平時より教員学生からの授業に関する質問が多く、また基本的にメールでの問い合わせとなったため、4～5月はその対応に苦慮した。	日本大学（文理学部）
非常勤講師の先生に（ご年配でも）、Microsoft Teams等を使ったりリモート授業の方法を、全学のリモート授業の整備と同時並行で、研修していただいた。	梅光学院大学
今年度は2年生の履修者しかいないため、「生涯学習概論」「博物館教育論」の2科目しか開講しておりません。座学ですので、他の科目と同様の取り扱いをしました。 ※「博物館概論」は3月に開講。	羽衣国際大学
講義科目については基本的にオンラインでの実施を担当教員にお願いした。	阪南大学
ほとんどの科目が遠隔授業となった。	福岡大学
大学の危機対応に従った。	佛教大学
すべての授業でオンラインの要素を取り入れたため、担当教員がこの準備に追われることとなった。その一方でオンライン授業では授業映像のデータが繰り返し視聴が可能であるため、学生はこれを何度も見て復習することが出来た。	文化学園大学
本学は山間地にあり、山梨県でもこの地域では新型コロナウイルス感染者が一人もでておりません。このような立地条件の中、政府や文科省の指示に従って感染予防をしております。特に講義科目の扱いや運営に苦慮した点は、全学的に講義開始日を約1か月延期したことです。	身延山大学
前期はすべての授業をリモートで行うことが急遽決まったため、実習を伴う授業の担当者には、どのようにリモートで対面授業での実習に値する授業を実施していただくか、また、その準備に必要な資材、教材を限られた実習費予算の中から捻出するか、大変苦勞した。 後期には、原則対面授業ができることとなったが、一時間目の授業はリモートとなった。また、教室のサイズの問題から、一部授業は一時間目でないにもかかわらずリモートで実施せねばならず、対応に苦慮した。リモート授業については、一部講師（非常勤）にとっては、通勤距離の点から歓迎される向きもあった。また、学生にとっては、出席確認のために毎回の課題に答える必要があったことから、通常の教室での授業より、授業内容の理解が深まったという効果もあった。	宮城学院女子大学
博物館学に関する全科目につきオンライン講義で対応しました。	武蔵大学
新型コロナウイルス感染予防対策の為の教室確保や消毒備品の手配など	明治大学
大学の方針でオンライン授業で実施する期間があったので、技術的なことについて科目担当教員とやりとりを行った。	

学内の授業支援システムを活用して授業を行うものがあり、準備と体制整備に時間を要した。	名城大学
遠隔授業の活用です。	桃山学院大学

8. 【学内実習授業】での感染防止対策について、ご記入ください。	
春学期の後半には実習場などに限って開講可能となったが、各回15人以下で行っていた実習を10人以下年回数を増やして実施した。実習前後で大学から配布された除菌スプレーでテーブルなどを拭く作業を毎回行った。	愛知学院大学
手洗いやマスク着用の義務化、健康チェックの義務化、密を避ける、大声で騒ぐ、集団による行動の自粛、など、学長名で防止策が出ているため、それに準ずること。	愛知淑徳大学
教室定員を約半数に減らし十分なソーシャル・ディスタンスを確保し、各教室の換気を徹底し、学内の要所に手指消毒用アルコールを設置した。授業に際しては、座席指定や座席の記録を保管し、濃厚接触者の確定に役立てクラス全体を閉講にしない措置が取れるようにした。 学生に対しては、毎朝の体温チェックと記録の習慣化を行うため健康管理手帳の携帯を義務付けるとともにマスク着用を励行した。	
教室内の密を避ける、定期的に換気を行う、学生全員にマスクの着用を義務づける、毎朝検温をさせる、など	茨城キリスト教大学
37.5℃以上の発熱や倦怠感等の風邪症状や味覚嗅覚障害がある場合は入構不可とし、各棟の入り口に非接触型の検温器及び消毒液の設置を行った。また、体調に不安がある学生の授業参加についてはテレビ会議システムでの参加も可とした。	江戸川大学
1クラスの定員を例年より減らし、距離を保てるよう広い教室を設定した。 教室入室時の手指消毒、実習に使用する備品等の消毒も行った。実習室は1日の中でクラスの入れ替えが起こらないようにし、翌日朝に清掃消毒をおこなった。	桜美林大学
教室を複数用意し、1教室の受講者数を制限した。また、感染防止対策（換気、消毒、マスク着用）を徹底した。	大阪芸術大学
可能な限り遠隔にて授業を実施し、感染のリスクを減らしました。	大阪市立大学
<ul style="list-style-type: none"> ・座席表の作成 ・学生の私語に対する注意 ・咳エチケットを遵守 ・マスクの着用 ・授業中の室内換気 ・フェイスシールドが必要と判断された場合は、学生に持参するよう指示 ・グループ内でのディスカッション等、会話は必要最低限とするように学生に周知 	大阪大谷大学
マスクの着用、手指消毒等の基本的な感染対策を徹底し、大学構内への入構時に検温（非接触型端末）を学生に義務付けている（全学的な対策）。	大谷大学
本学の「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」に沿って、担当教員が実施した。	大手前大学
学内実習授業のみならず、全学的に換気や座席に間隔を空ける等の注意喚起を行っていた。	岡山商科大学
利用教室設備の徹底した消毒、換気、三密を避けた少人数での実施。教員ならびに学生はマスクの着用、手指の消毒の徹底。	お茶の水女子大学
事務局が準備したアルコールスプレーや除菌シートを担当教員が授業講堂に持参し、学生に対してアルコールスプレーによる手指の消毒、マスクの常時着用、不要な会話は控える、着席する際は前後左右の間隔を空ける等指示した。	神奈川大学
広さに余裕のある教室に変更し、間隔をあけて座ってもらうなど教員・学生が密にならないように対策した。実習で学生が使用する道具等も共有しないよう配慮した。	関西大学
消毒液の常備、間隔を空けて実習を行う	北里大学

学内実習担当の教員が大学の感染防止対策規則に従い実施	岐阜女子大学
現物の取り扱いについては少人数で実施。こまめな手洗い、手指消毒の指導。手袋の使用。	京都橘大学
大学で定めた「感染予防のためのガイドライン」に基づいて、消毒の徹底や3蜜の回避に配慮し、感染予防のための対策を講じた。	京都産業大学
教室の換気、間隔をあけての着席、手指の消毒など。	京都精華大学
体温測定、マスク着用、手指消毒、机消毒、座席は前後左右を空けて着席する等。	京都文教大学
2～3人の少人数のグループに分け、同じ愛用の授業を複数回分けて実施した。資料を扱うごとに手指の消毒を行った。	県立広島大学
外部業者による使用教室等の消毒、風邪症状チェックシートによる学生・教職員の体調管理の依頼、教室入退場時の手指の消毒、マスク着用の徹底、教室内での密回避（座席指定）等 大学独自の感染防止ガイドライン（URL： https://www.kobegakuin.ac.jp/news/b681ed5246d95fe6e99d.html ）を定め、学生には、「3密」（密閉・密集・密接）の回避、身体的距離（1mを目安にできるだけ間隔を取る）の確保、咳エチケットの徹底、手洗い、手指の消毒等。 感染者が出た場合は、担当部署を通じて兵庫県保健所へ連絡を入れ、その指導を仰ぐ。	神戸学院大学
前期は6月末までリモート。7月と、後期実習は対面で実施。対面実習を実施した実習室は、定員100名の広さがあるため、3分の一の人数で使用。マスク着用は当然であるが、各自の展示解説動画においては、マウスシールドを使用して実施した。	神戸女子大学
学生には「健康観察シート」を配布し、毎日の検温と身体の様子、移動の記録を呼びかけている。大学各門に検温器を設置し、教室入口にもすべて手指消毒を置いている。教室の出入り口はすべて開放している。	郡山女子大学 短期大学部
マスク着用、手指消毒、換気、3蜜の場面を避ける、など。	皇學館大學
学内にある大学博物館で安全に行う配慮をしました：3蜜を回避する；道具類は共有しない；手指消毒はこまめに；授業開始時に体温チェックなど	国際基督教大学
大学入構時の検温、手指消毒、マスク着用、定期的に換気を実施しました。	国立音楽大学
実習は、感染防止策のため行いませんでした。	
大学で新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動ガイドラインを作成し、周知徹底している。 主な対策等（授業に関する部分） ・必ずマスクを着用し、発言する時も外さないよう指導している（マスクを着用しない場合は授業への出席を認めない）。 ・布マスクやポリウレタンマスクより感染予防効果の高い不織布マスクを推奨している。 ・授業で使用したキーボード等は使用前に備え付けのペーパーで消毒する。 ・ディスカッションをおこなう場合は、密接にならないように注意する。 ・ヘッドホン（イヤホン）はできるだけ自分の物を持ってきて使用させている。やむを得ず大学のヘッドホンを使用する場合は、使用前に備え付けのペーパーで消毒する。 ・ソーシャルディスタンスを保つため、座席を間引きして着席させている。 ・学生が座った座席を出席確認で特定できるようにしている。 ・担当教員が教室毎に定められた例示に基づき換気をおこなっている。 ・各教室の教卓に飛沫防止用の透明パーティションを設置している。	札幌大学
学内実習は元々実施していない。	山陽学園大学
教室の収容人員を定員の50%以下とし、距離を保って着席できるようにレイアウト変更した。 入室の際の手指消毒、マスク着用を義務づけた。 器具や机と椅子の消毒を授業後に実施し、窓を開けるとともに換気装置も使用して空気が循環するようにした。 共用していた実験器具などは、新たに数を増やして1人ずつ使用できるようにした。	滋賀県立大学

マスク、手洗い、アルコール液の常備、消毒用のシートで用具をこまめに拭く、必要な場合のためフェイスシールドを配る、大きい教室にし、窓を開ける、といった対策をした。	実践女子大学
3つの密を避け、本来のクラス分けとは異なるグループ分けを行ったほか、手指消毒液を常備するなどしました。	就実大学
対面授業実施の際は、もともとが小人数のため、感染症対策をしながら通常通り実施しました。見学実習などは、一度に参加する学生の人数を分散させて実施しました。	白梅学園大学
前期期間は遠隔授業（オンデマンド型）にて実施。 後期期間は、以下の感染防止対策のうえ、対面にて実施。 ・起床時の検温（37℃以上もしくは体調不良の場合は登校、実習への参加を禁止する。） ・教室に入室する際に検温、アルコールによる手指消毒を実施。 ・マスク（またはフェイスシールド）の着用必須。 ・実習道具のアルコールによる消毒（拭き取り）。 ・実習中のこまめな手洗い、アルコールによる手指消毒を行うよう指導。 ・1科目の受講者数を制限（最大20名程）。 ・座席は前後左右をあけて着席（座席指定）。 ・実習中、教室の扉や窓を開放し、常に換気をする。 ・授業開始、終了時に机等のアルコール消毒を実施。	椋山女学園大学
・座席配置の工夫。向かい合って座らないようにしたり、なるべく距離をとれる座席配置を考え、学生には指定された席で受講するようにお願いをした。 ・授業の前後、またお昼休みの教室の換気を行った。 ・館園実習の際と同様に、学内実習授業の2週間前からの検温、学内実習当日の検温の指導をした。その他にも、自身が濃厚接触者に特定された場合や、実習後に感染が判明した場合には教務課に速やかに連絡するように指導した。	西南学院大学
実習授業はすべてオンライン授業にて開講した	大正大学
大学の防止対策に準じて、学生には科目担当者より指導がされている。毎朝の検温及び体調の確認、感染リスクの高い場所に行く機会を減らすなど。消毒・マスク常時装着。学生の家族等の感染により学生が濃厚接触となった場合、2週間は実習への参加を見送るよう指導している。	玉川大学
換気・手洗い・消毒を随時行いつつ、1日当たりの参加人数を制限し、分散して実施。（指導教員は同じ内容を複数回繰り返し行っていった）	多摩美術大学
ドアや窓をあける。換気扇を回す。などですが、実習室が40人収容のところ、実習生が4人と10人と少ないため対応ができました。	千葉経済大学
マスクと一部資料を扱う際の手袋着用、授業中の窓の開放、複数教室実施で1教室内の人数を少人数とし密を避けること、各部屋アルコール消毒の設置、貸し出し備品の人数分の用意（回し使いによる感染を避けるため）などを実施しました。	中央大学
マスク、フェースシールド、手洗い、検温。	鶴見大学
校舎への立ち入り時はもちろん、実習時には数人に1つ程度の消毒用アルコールを用意し、使用した物品などをすべて消毒してから実習を終えるようにしました。	帝京科学大学
・マスク着用、構内に入る時の体温チェック（センサー）、アルコール消毒をさせています。 ・教室の換気の為、前後のドアは常に開けています。（窓は定期的に開けています） ・席は前後左右1つずつ間隔を置いています。	天理大学
基本リモートで行いましたので、それ自体が感染防止策ということになります	東京家政学院大学
学生自身の体調管理を促すとともに、大学構内に入る際は必ず手指消毒、検温を実施する体制を整えた。	
教室の換気を十分に行いながら授業を実施した。1コマごとに異なる教室で授業を実施した。	東京女子大学
ライブ配信や課題提出で実施した。	東京造形大学

机・使用道具の毎度消毒／非接触型体温計／オンライン授業を主体とし、対面の場合には間隔をあける	東京都立大学
学外・学内でのガイドラインに沿って対応した。	東京農業大学
リモートと対面の併用。対面はフェイスシールドの着用、アクリル板の設置マスク着用、手指消毒などを実施した。	東北学院大学
教室入り口に非接触型体温計とアルコール消毒液を設置した。教室内に自立型感染予防透明衝立を間仕切りとして設置した。各班に除菌シートを配布した。教室の窓と扉を開放し、換気を実施した。	常磐大学
講義室の前に消毒液の設置および換気の徹底、教卓にパーテーションの設置	奈良教育大学
実技実習の各実習では例年1クラス約40名で実施しているが、今年度は半分の約20名で実施。例年、実習で使う道具は全て大学で準備していたが、今年度はカッターナイフや赤青鉛筆など、学生が準備できる道具は持参するよう指示。また、使用した大学の道具は使用后、各自で消毒をするよう指示。	奈良大学
発熱がないことの確認、マスク着用、フェイスシールドの装着、手指消毒の徹底、なるべく距離をとる（作業上できないことがあった）。	南山大学
各クラスへアルコール消毒液、ニトリル手袋を配布しました。	日本女子大学
人と人との間隔を保つこと、マスク着用、消毒等心がけた。学内への入構者を制限していたので、実習で来校する学生については、教員にあらかじめ届けてもらい、入構者を把握していた。	日本大学（理工学部）
対面実習では、同プログラムを1日2回行うことにより、人数を10人以下に抑えた。	日本大学（生物資源科学部）
「オンデマンド型」、「オンライン型」、「課題研究」の遠隔型授業を取り入れ、対面型授業の回数を調整することで、学生が一度に教室に会する機会の削減に努めた。対面型授業の際は、学生同時が2mの距離をなるべく空けられるように席を離し、授業中にも窓や扉を開けて換気に努めた。教員学生共に常時マスクを着用し、こまめな手指の消毒、教員にはフェイスシールドの着用を促した。	日本大学（文理学部）
所属大学は、全学生数が他大学に比べて少ないので、学生には毎朝検温結果や体調をMicrosoft Formsで報告させている（保健室管理）。早朝発熱があれば、授業担当教員に知らせれば公欠扱いになるようにしている。各校舎の入口にサーモグラフィ、各教室の入口に消毒液等を設置している。	梅光学院大学
入校時の検温、マスクの着用、こまめな手指消毒、ソーシャル・ディスタンスの確保はもちろんであるが、教室換気、座席指定、休憩の確保、飛沫防止衝立設置など、学内方針に基づき感染防止対策を徹底した。	阪南大学
室内換気の徹底。	比治山大学
感染防止のため、学内実習授業は遠隔授業となった。	福岡大学
マスク着用、席の間をあける、換気その他の一般的な対応	佛教大学
対面での授業回を減らした上で、大きめの教室を用いた。	文化学園大学
体調チェックの徹底、マスク着用の徹底、アルコール消毒の徹底（手指や実習時に触れたものに対して）、ソーシャルディスタンスの確保、定期的な換気の徹底を実施しています。	北海学園大学
マスク着用し、3密を避ける。	身延山大学
実習を行う教室は、普段は性格上、外気を遮断して実習を行っていたが、幸い、広く開いた窓があることから、一部の窓を開放し、常に空気を循環させる対応をとった。入室の際には、アルコール消毒液での手・指の消毒を徹底させ、実習終了後には、座席、机、器具のアルコール消毒を徹底した。通常授業では、学生同士での作業の確認を行わせていたが、接触回数を少なくするため、教員による模範作業を複数回行い、学生同士の接触をできる限り押さえるなど、工夫した。	宮城学院女子大学

教室の環境整備（学生間の距離がとれるよう収容人数の大きい教室利用、機械換気と出入口ドア・窓の定時開放、机とイスの消毒）と速乾性アルコール製剤の準備と体温測定	武蔵大学
検温、マスク（飛沫対策）、消毒、ソーシャルディスタンス	明治大学
オンライン授業推奨期間には学内実習もできなかったため、対面授業が緩和された期間に、定員、換気などに注意して実施した。	
マスク着用、アルコール手指消毒、換気、教室定員管理などによって感染症防止対策を行った。また、例年、グループ活動で実習を行っていたものを個人活動に切り替えて対応した授業もあった。	名城大学
授業前の検温、手指消毒の設置	目白大学
換気、マスクの着用等です。	桃山学院大学
3蜜の防止、マスクの着用、消毒。	山形大学
本学の指針に沿って、マスク、フェースシールドの着用、換気、密を防ぐ教室使用等を徹底して実施した。	立正大学

9.【館園実習】および【見学実習】について、感染防止対策や、学外への学生送出しについての学内手続き等について、ご記入ください。	
実習2週間前から検温をし、「健康状況申告書」に毎日記入させて、感染防止の徹底を図るように指導しました。	愛知学院大学
手洗いやマスク着用の義務化、健康チェックの義務化、密を避ける、大声で騒ぐ、集団による行動の自粛、など、学長名で防止策が出ているため、それに準ずること。	愛知淑徳大学
【見学実習】は同一日に履修学生がまとまった見学は行わず、展示会の会期中に個々で見学日を決め見学に行く対応に代えて実施した。見学にあたっては、健康管理手帳で日々の体温チェックを行ったうえで、体調不良の場合には、教員に連絡を取り無理な見学をさせないことを留意した。【館園実習】は受け入れ実習先の指示に基づき、実習2週間前からの体調管理に心がけ、感染リスクの高い場所へ行く機会を減らすことや実習前に体調不良や濃厚接触者と特定された場合などについては速やかに実習先および大学事務に連絡を取るよう「実習にあたっての心得」として周知した。	
学内での感染症対策に加え、先方で要求される感染症対策を実施しました。	茨城キリスト教大学
実習先の感染防止対策と、参加者の健康状態を把握したうえで、学外実習を行う届を提出し、個別に許可したものについて実施を認めた。また、学生個々の状況によりオンラインでの参加等、代替措置を選択することも可能とした。	江戸川大学
実習2週間前からの健康観察、感染リスクの高い場所へ行くこと、不要不急の外出を避けることを指導した。実習先の要請により実習前の抗体検査を学生へ指導した。また、学外への見学実習で引率する教員に見学先の感染予防対策、授業計画、履修者名簿の申請を要請した。	桜美林大学
館園実習について今年度は3名が学外での館園実習を受けた。例年対面で行っていた大学と学生間の館への提出書類のやりとりは、メールや電話で行った。本学博物館での館園実習は、学内実習同様、密集にならないよう講義場所を変更し、感染防止対策を徹底した。見学実習について教員引率の見学実習は、前期実施（5・6月）を全て後期実施（11月）に変更し、多人数にならないようグループ分け、時間差を設けて実施した。	大阪芸術大学
学外実習を行う際には感染症対策を徹底する条件のもと、学部長に許可を得た上で実習を行いました。また、学生には実習初日2週間前からの検温をさせ、体調が悪い学生は実習を取りやめるようにしました。	大阪市立大学
学外活動を伴う授業実施にあたっては事前に「新型コロナウイルス感染症拡大防止対応策申請書」を教務課に提出し、危機対策本部会議での承認が必要。	大阪大谷大学

館園実習については、基本的な感染対策の徹底はもとより、実習開始2週間前から終了後2週間までの検温、体調記録を行うよう指導している。見学実習については、前期中は個別見学してのレポート提出と見学が難しい場合は当該企画展示に関する調べ学習を併用して対応した。後期対面授業再開後は、教員引率の上、見学も実施したが当日の検温・体調観察はもとより、基本的な感染対策を徹底しながら実施した。	大谷大学
基本的な手指消毒の他、朝夕の体温および体調チェックを怠ることなく毎日「健康チェック表」に記入、携帯し自己管理をすること。少しでも体調に不安のある場合は、受け入れ館のご担当ならびに担当教員、大学担当者へ連絡を入れるよう繰り返し伝えた。	大手前大学
館園実習前には、担当教員を通じて体温チェックシートを該当学生へ渡した。	岡山商科大学
館園実習の応募書類の提出について、郵送でも受付可とした。	お茶の水女子大学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の保健管理センターが作成した「学外実習参加にあたっての注意事項」に基づき新型コロナウイルス感染症の予防を徹底するよう指導し、実習期間中は毎回感染防止用チェックリストを記入するよう指示した。 ・ 館園実習や見学実習等の学生の学外活動は、新型コロナウイルスに関する学内の緊急対策本部会議において承認を受けたうえで行われた。 ・ 実習先へは、本学の新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う博物館実習の実施に係る指針について書面にて伝えた。 	神奈川大学
館園実習は、本学博物館で実施し、展示室内で学生が密にならないよう、グループ分けをして時間をずらすなど、人数を調整して対応した。感染拡大状況等を考慮し、見学実習は予定していた大部分を中止とした。それに代わり、ウェブ上で博物館園を検索・調査してレポートを提出してもらう等の課題を課した。	関西大学
学生と事務との連絡は、対面を避け、電話・メール・郵送で行うようにした。	北里大学
館園実習に際してはガイドラインを作成し、学生にはガイドラインを提供し指導をおこなった。また、実習先に対してもガイドラインを提供した。内容としては実習2週間前から検温をはじめとする健康管理チェック表を課し毎日の体調管理するよう指導した。また、マスクや咳エチケット、新型コロナウイルス感染が疑われる症状の場合は大学に連絡するよう指導した。そのほか、海外から帰国し帰国翌日から2週間の自宅待機を経っていない場合や家族など、同居者・近親者に風邪の症状が認められたり、新型コロナウイルス感染者がいたり、本人が濃厚接触者となった場合には実習取りやめとなる旨指導した。	京都橘大学
館園実習開始の前後2週間は、毎朝の検温を実施し、健康確認表に記録の上、実習期間中は実習先に提出させた。また、手洗いうがいやマスクの着用の徹底を指導した。	京都産業大学
クラス単位の「見学実習」は中止し個別に見学してもらった。「館園実習」については、実習2週間前からの体温等の健康チェックリストを作成し、実習生にチェックを依頼した。	京都精華大学
実習2週間前からの検温と健康管理の記録、実習中・実習後2週間の継続した体調管理、学内健康管理センター作成の健康管理チェック項目に該当する学生は参加させない等の感染防止対策をもとに、学内危機管理委員会の判断を経て実習を実施した。	京都文教大学
毎日検温、健康観察をさせ、実習先の対策に合わせて学生に周知し、送り出した。	県立広島大学
事前に以下のような2点を双方で確認しておく。(1) 訪問先での感染予防対策について、訪問先に確認し、内容を理解している。(2) 訪問終了後に感染等が発症した場合の対応について、訪問先と協議し、双方同意を得ている。	神戸学院大学
<ul style="list-style-type: none"> ① 文科省からの通達を実習生に配布。 ② 館務実習開始2週間前からの行動自粛の義務を強く指導。 	神戸女子大学
地元(県外)に実習へ行った学生の帰省(健康観察を求められた期間)が期末試験と重なってしまったが、追試験で対応できた。	郡山女子大学短期大学部

実習前、実習中の健康状態を本学所定の体調チェックシートに記録する。	皇學館大學
学外への送り出しはありませんでした。	国際基督教大学
手洗い、うがい、マスク着用を学生に徹底させ、実習2週間前から検温するよう記録表を渡しました。	国立音楽大学
「博物館実習」担当教員が指導しているため、館園実習や見学実習に特記した感染防止対策は設問3～5の回答の通り。	札幌大学
感染防止策は徹底した。学内手続きは従来と変わらない。	山陽学園大学
実習日の2週間前から健康観察表を記録し、朝・夕の検温を義務づけて体調管理するよう指導した。	滋賀県立大学
従来は呼び出して個別に実習送り出しまでの指導をおこなってきたが、それができなかったので不便ではあった。大学が「manaba」というオンラインシステムを使用しているため、その個別指導でやりとりをした。また2週間前からの体温チェック、人混みに行かないなど、文科省から出された指針を踏まえて学生に注意をおこなった。	実践女子大学
館園実習については、現場実習を希望する学生のみを送り出すこととし、決して強制することがないよう配慮しました。	就実大学
「学外授業届」を学長に提出します。学内の執行会議で内容を確認して許可をします。	白梅学園大学
○感染予防対策【館園実習】・遠隔授業（オンデマンド型）2日間、現地実習3日間を組み合わせ実施。・感染予防のため、実習内容を一部変更。・起床時の検温（37℃以上もしくは体調不良の場合は登校、実習への参加を禁止する。）・マスク（またはフェイスシールド）の着用必須。・送迎バス乗車時の検温、アルコールによる手指消毒の実施。（私語禁止・座席指定）・実習中のこまめな手洗い、アルコールによる手指消毒を行うよう指導。・現地実習3日間の「検温・行動記録表」を提出。（起床時の検温結果、1日の行動記録を記入）【見学実習】・各博物館等施設のホームページに掲載されている感染対策等を確認してから見学するよう、学生へ指導。※学内手続き等については、担当教員からの学外授業願の提出をもって、可としています。	椋山女子学園大学
館園実習の事前指導会は対面ではなくメールで実施した。館園実習の2週間前から体温の記録をつけるように指導した。実習当日の朝の検温で37.5度以上の熱や息苦しさなどの風邪症状がある場合は速やかに教務課に連絡するように指導した。その他にも、自身が濃厚接触者に特定された場合や、実習後に感染が判明した場合には教務課に速やかに連絡するように指導した。	西南学院大学
実習開始前後1週間～10日間は朝晩の体温測定を指示し、少しでも体調不良であれば遠慮なく連絡するように指導した。	大正大学
対面を減らし、オリエンのオンデマンド化、書類等の電子化、郵便対応。見学実習も現地で行えないため、HP研究課題などに切り替えた。	多摩美術大学
本学は館園実習は全て付属の博物館で行うため、学内実習と同じ形態で行いました。見学実習については、あくまで個々で行動するように指示しました。	千葉経済大学
見学実習は、履修生と教員で行っていましたが、感染症対策として、集団行動は行わず、各自で館の見学に行く方法に変更して実施しました。館園実習の学内手続きについては、事務室窓口での会話やり取りが主だったが、主に電話・メール・郵送等で行った。館園実習に参加するにあたり、事前に感染症対策を記した文書を学生へ配布しました。	中央大学
館がわの感染防止対策が急変であったので、館園の学芸員実習受け入れ中止、続行、縮小、延期など混乱した。	鶴見大学
学内の危機管理委員会で実施に向けた報告を行なった上で、実習の前後1週間を含む自己検温表への記入を求め、感染防止のための注意喚起を行ないました。	帝京科学大学
実習前に体温チェックを毎日してもらい、体調不良の場合は実習参加を見合わせるようにしました。	天理大学
個別に見学にいらしてもらった、日時場所等を把握しておいた	東京家政学院大学

従来は学生との応募書類の受け渡しを対面で行っていたが、郵送またはメールで対応した。博物館実習の要項については、ポータルサイトに掲載し、学生が大学に入構しなくとも閲覧ができるようにした。実習開始3週間前から検温と風邪症状の確認・記録を取ることと、感染リスクの高い場所に行く機会を減らすことを指導した。	東京女子大学
学生の移動回数を減らすために各館の募集要項はデータ化したものを学生に周知し、書類のやり取りを郵送で対応した。	東京造形大学
閉室措置をとった	東京都立大学
手続き等ではないが、受け入れ施設と連絡等多く行った	東京農業大学
【館園実習】実習参加2週間前より毎朝の検温や風邪症状がないかを確認させた。また、感染リスクの高い場所へは行かないこと、不要不急の外出はしないよう指導した。【見学実習】本学は例年京都・奈良方面の博物館を中心に見学実習を行って来たが、今年度は大阪を中心とする近畿圏の感染拡大が続いていたため、見学実習先を感染者の少ない東北地区を中心に限定して、各自見学実習することに変更した。	東北学院大学
常磐大学博物館学博物館での実習では、ギャラリー入り口に大型扇風機を設置し、換気に心がけた。	常磐大学
学外授業届の提出	奈良教育大学
館園実習について、学内手続きはしていないが全実習生に（一人ずつ）口頭で以下の内容を指示。・実習に行く2週間前から毎朝の検温および風邪症状の確認をする・実習中は手洗いや咳エチケット等の基本的な感染症対策を徹底し、マスクは常時装着する・家族等の感染や自分が濃厚接触者に特定された場合、感染者と最後に濃厚接触した日から起算して2週間は実習への参加を見送る見学実習について、引率見学は団体行動のため、今年度は中止。本学附属の博物館のみ見学。代わりに自主見学館数を増やして各自見学に行くよう指示。	奈良大学
どちらも実施していない。	南山大学
実習2週間前より、学生各自に検温を義務付け、実習先に提出するように指導しました。	日本女子大学
ガイダンスは対面ではなく、書面にて実施した。ガイダンス資料において、感染防止について注意を促したり、学内の健康管理システムを用いて、検温の記録をとるように周知した。見学実習については、個人での見学を取り入れた。	日本大学（理工学部）
博物館実習Ⅰにおいて団体見学のできないことから、個人見学となった。このため、個人見学届を学内に提出することとした。	日本大学（生物資源科学部）
マスクの着用や手指の消毒、体調管理に努めるよう指示。学生に毎日の健康状況を学部HPの健康管理システムに報告・入力するよう指示。見学実習の際は、健康管理システムへの報告に併せて、見学当日の健康状況を別途記入した用紙を引率担当に提出するよう指示。館園実習の際は、健康管理システムへの報告に併せて、実習中及び実習前後2週間の健康状況を別途記入した用紙を実習館及び大学に提出するよう指示。館園実習の際は、健康診断が大学で行われていない旨を連絡し、健康診断受診の有無を学生から確認するよう対応。	日本大学（文理学部）
館園実習は、文化庁指針に基づき、教育実習等も参考にした。事前に実習館と十分に連絡をとり、急遽の実習中止もあり得ることを相互に確認した。見学実習については、実施できていないため特記事項はない。	梅光学院大学
体調確認のためのセルフチェックリストにて参加可能かどうかを精査するとともに、担当教員には感染防止対策を徹底指導するようお願いした。また、実習先においては大き目の会議室を借用するなどした。	阪南大学
館園実習では、実習生が実習実施2週間前より検温・健康観察記録を記入し、実習当日に実習施設へ提出した。	比治山大学
検温、マスク着用を徹底させ、受け入れ館の感染防止対策に従わせた。	福岡大学

学内の対策会議にて実習実施についての方針を決定し、実習実施2週間程度前から以下の取り組みを遵守し、健康状態に問題のないことを実施要件とした。①毎朝の検温および風邪症状等の確認を行い、チェックシートに健康状態の記録を行うこと。②感染症対策を徹底すること（手洗いやうがいの励行、咳エチケット、マスクやエプロン等の着用）③日常生活において免疫力を高めること（適正な睡眠・運動・食生活）④感染リスクの高い場所への移動を自粛すること ⑤実習先に感染予防についての誓約書・チェックシートを提出すること ⑥家族等の近親者に感染者がいないこと。また、自身が濃厚接触者に特定されていないこと。	佛教大学
館園実習では、対面での実習機会を減らすことで、感染防止を意識した。	文化学園大学
実習先での体温測定の徹底の上、全ての条件を満たした学生に対して実習を認める形を取っています。	北海学園大学
マスク着用し、3密を避ける。	身延山大学
大学のガイドラインに沿って実施した。館園実習では、受け入れ館の指示に従い、学生に指示を守るように厳重に注意を行った。巡視も、館の意向に従い、行わなかった施設もあった。見学実習は、基本的に、個人で行わせることとした。見学すべき施設、展覧会を指定し、学生には見学結果をレポートで提出させ、学芸員課程の教員が添削を行って見学のポイントを指導し、また新たな見学課題を提示して、指導の効果定着を図った。	宮城学院女子大学
館園実習については、学生に2週間前からの健康観察の記録の実施。見学実習は実施しませんでした。	武蔵大学
受入実習館より感染防止対策の指針が文書等で示されているので学生への徹底周知と体調不良の際の学内情報共有・学内外対応のマニュアル化。	武蔵野美術大学
検温、マスク（飛沫対策）、消毒、ソーシャルディスタンスを学生遵守の下、教務部長に許可願いを提出、承認後送り出しが可能となる。	明治大学
当大学では、学外実習について学長への報告や許可が必要であった。学生リストを作成し、所管部署に提出した。	
マスク着用、アルコール手指消毒、健康観察（検温）を行うように促した。	名城大学
学内手続きについては、例年と変更なし。	目白大学
緊急事態宣言を受け、日程の変更、窓口手続きの郵送への変更等。	桃山学院大学
3密の防止、マスクの着用、消毒。	山形大学

10. 教務事務において、他に苦慮したことやご意見等があれば記してください。	
今年にはコロナウイルス感染症の流行に伴い、実習先によって対応が様々でしたので状況把握が大変でした。	愛知学院大学
本学においては、新年度に学芸員資格取得希望者向けのガイダンスを実施している。また、学芸員課程は登録制としており、ガイダンス出席を履修の条件としているが、今年度はガイダンスも遠隔（オンデマンド）での実施となったため、登録票の提出もFormsを利用したアンケート形式をとることになるなど、緊急事態宣言下での急な対応変更でガイダンスにも十分な準備期間が取れなかった。また、資料のみでの説明となることで、学芸員資格取得を希望する学生が興味をもてるような十分な説明が行き届かなかったのではないかと懸念される。	愛知淑徳大学
館園実習先の確保に一番苦慮した。決まっていた実習の中止や期間の短縮への対応が多く、例年より実習決定までに時間を要した。これまで対面で行っていた説明会や申込手続きをオンラインやメール等で対応することへの準備や配布物、提出物をすべて郵送で対応することに手間がかかった。	桜美林大学

<p>学内実習は、対面授業の必要性を強く感じ、早い時期での対面授業の開始を目指した。そのため、複数教室や消毒液など感染防止対策に必要な備品の確保に苦労した。</p> <p>見学実習や本学博物館で実施する館園実習の日程や日数確保とともに、中止や日数短縮の場合も想定し、どのように時間数を確保するかなど苦慮した。</p>	大阪芸術大学
<p>このコロナ禍で、毎年実習を受け入れていただいている博物館実習先からも、受け入れが難しいと言われるケースもありました。今後も、実習先確保が難しくなるケースがあり、実習内容についても工夫が必要かと思いました。</p>	大阪市立大学
<p>フィールドワークや実習など、対面が必要な授業時間数の確保に苦慮しました。</p>	大阪大谷大学
<p>館園実習の受入困難により、実習館の調整に苦労したケースが数件あった。(そのうち1名は本学博物館での実習受入となった。)</p>	大谷大学
<p>見学を行った授業に関しては、団体での受け入れが難しく個別見学となったため、一括での見学科支払いができず、個別対応となり若干細かな作業が増えた。他、館園実習ができるのかどうか不安に感じている学生について、なるべく精神的なフォローができるよう努めた。</p>	大手前大学
<p>館園実習の日程がなかなか定まらない場合が多く、情報のとりまとめに時間を要した。</p>	お茶の水女子大学
<p>実習期間が6日間から4日間に変更になった実習先があり、不足する実習日数を補うため、本学で実施する「博物館実習Ⅰ」に参加することとした。</p>	神奈川大学
<p>博物館実習では、実際に史資料に触れる機会をもってもらうため、資料を取り扱う実習を3回に分けて、当初予定していなかった日曜日に行くなどの対応をした。</p>	関西大学
<p>館園実習の実習先が決定したにも関わらず中止となり、再度実習先を探す時には既に募集締め切りとなっている館園が多かった。</p>	北里大学
<p>館園実習に際し、本学、他学を含め実習生の体調不良者の発生連絡を受けたときには新型コロナウイルスの発症に該当していないか、肝を冷やした。本学では、実習科目について館園実習と併せて学内演習を実施していたため、館園実習の日数等が不足する場合でも文化庁の通知に基づき不足分を補填することができた。</p>	京都橘大学
<p>オンライン授業が主流になり、学生との対面でのコミュニケーションがこれまでのように取れないことに苦慮した。</p>	京都産業大学
<p>博物館実習について感染状況は刻々と変化していくため、受入先との連絡頻度が以前に比べて高くなった。</p>	京都精華大学
<p>館園実習直前に受入中止となったり、日程変更となった実習先があった。</p>	京都文教大学
<p>例年、教員、学生、事務で連携して実施しており、いつもよりもより情報共有を密にしたため、特に苦慮したことはない。</p>	県立広島大学
<p>学科の教員、各授業担当者の協力により、特に苦慮したことはない。</p>	郡山女子大学 短期大学部
<p>オンライン授業に対応する学内ソース(物的、人的含む)が不足している。</p>	皇學館大學
<p>オンライン授業への助言をメールでいただき、大きなトラブルは生じていません。</p>	国立音楽大学
<p>例年に比べて実習館との連絡事項が増えた。</p>	札幌大学
<p>遠隔授業で学生が大学に来ない時期は、書類のやりとりや連絡をとるのに苦労した。</p>	滋賀県立大学
<p>春の緊急事態宣言の間、長期間学内に入れなかったために美術館からの通知を受け取れなかったことがあり、郵送連絡だけの場合にやりとりに苦慮した。</p>	実践女子大学

<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、前期は基本遠隔授業、後期は対面・遠隔を組み合わせて実施いたしました。</p> <p>「博物館実習」の場合、学内実務実習・見学実習の実施方法の見直し(前後期で遠隔・対面と分ける等)、館園実習の日程、実習内容の変更等に時間を要しました。館園実習では、初めて遠隔授業(オンデマンド型)と現地実習(対面)を組み合わせて実施いたしました。新型コロナウイルス感染症対策として削らざるを得ない実習の代わりに新たな課題を追加し、現地にて行っていた内容を遠隔にて実施するなど、手探りで進めてきましたが、例年にない実施方法での実習により、対面のみに限らない実習運営の可能性が模索できました。</p> <p>前期に予定していた講義の後期への変更や、実習日程・内容の再調整等、関係者の方々へはご迷惑をおかけしてしまったかと思えます。</p> <p>感染症による世の中の状況に合わせて業務をこなしてきましたが、変更点も多く、普段進めている業務もなかなか進めることができないことが大変に思いました。</p>	<p>椋山女学園大学</p>
<p>感染症の流行で館園実習のが延期になったり、日程が決まらなかったりする中で、実習受入館園や学生との調整作業に苦慮した。</p>	<p>西南学院大学</p>
<p>実習申込みが集中する3月から入構禁止、オンライン転換となったため、5月中旬ぐらいまでは授業運営や履修登録に関する学生、保護者からの大量の問い合わせ対応に忙殺されており、資格課程の学生はなるべくメールで問い合わせるようにしたものの、電話が落ちてく夕方以降や休日の対応になっていた。</p> <p>実習手続きでは窓口で書かせれば一瞬で終わることも、メールにPDF添付や原本を郵送させるなど、書類の授受に時間がかかった。また行きたい実習館で実習受入中止となったり、2、3件受入不可になった学生もいて、すべての実習生の実習が完了したのは12月中旬だった。</p>	<p>大正大学</p>
<p>ガイダンスの欠席フォローがたびたびあり、苦慮しています。</p>	<p>玉川大学</p>
<p>実習館側が指定する手続きが紙媒体(押印有り)による郵便の場合も多く、テレワークでの対応は困難であった。</p>	<p>多摩美術大学</p>
<p>博物館実習は対面式が取れなかった場合どのように行えばよいかが課題であると思います。</p>	<p>千葉経済大学</p>
<p>通常時は授業で来校している合間に事務室に立ち寄り手続きできていたことが、来校できない時期には郵送対応等となり、学生側の手間や、受け取りまでのタイムラグが生じることが資格課程では特に不便に感じました(オンラインで授受できるものもありますが、館園実習先への履歴書等の提出物など、原本が必要なものもあるため、また記載不備などがあった際のやり取り等)。</p>	<p>中央大学</p>
<p>年度初めの3-4月の重要時期に受け入れ館園の基本方針が確定しなかったため、今年度は大きな混乱が生じた。来年度の令和3年度の実習を希望する学生の事前研究にも影響が大きかったので、学生指導が難しくなった。</p>	<p>鶴見大学</p>
<p>例年よりも館園実習の受け入れ先探しが難航したため、通常は7月末までに締め切るところを、9月末まで延長するなど対応に追われました。</p>	<p>帝京科学大学</p>
<p>コロナウイルスのため、実習が中止したり、受け入れ人数を制限したりする館もあったため、例年よりも実習館がなかなか決まらない学生が多かった。そのため、そういった学生の進捗状況の把握やまだ応募できる館を探すなどの作業が例年よりも多かった。また、本来対面で行っていたやりとりを郵送で行ったことで、大量の書類を郵送する作業や書類に不備があった場合などのやりとりが煩雑であった。</p>	<p>東京女子大学</p>
<p>従来は重要な事務連絡を対面で説明していたところ、書面のみで伝えることになったため、学生が読んで理解し、行動できる内容に作り変えるといった対応が必要だった。</p>	<p>東京造形大学</p>
<p>館園実習において、実習館での実習日数を減らし、大学で代替措置を講ずるべき明確な基準が示されなかったため、調整に苦慮した。</p>	<p>東北学院大学</p>
<p>対面授業において、事前に参加者名簿や日程編成を大学本部に届け出て了解を得る手続きを行なった。</p>	<p>常磐大学</p>
<p>対面授業と非対面授業の両立</p>	<p>奈良教育大学</p>

<p>実技実習を実施する際の学外の先生方との日時調整。 理由：1回の実習につき例年の半分の人数で実習を実施したため、実習の実施回数が本来の倍になったため。 館園実習館への実習生受入人数変更の依頼。 理由：実習の受入を中止された館があったため、1人でも多く実習生を受け入れてもらえないか他館に依頼したこと。また、館園実習を実施するかどうかの決定が長引いた館もあり、その間、実習できなくなるのではと学生にとって不安な状態が長く続いたこと。</p>	奈良大学
<p>ガイダンスができなかったこと。</p>	南山大学
<p>博物館によっては、新型コロナウイルス感染症対策のため2020年度の実習の取り止めや、人数を減らした受入とする館があり、実習先がなかなか決まらない学生の支援に苦慮しました。</p>	日本女子大学
<p>学内への入構者を制限していたため、連絡事項や資料の配布等はすべて、メールや電話、学内のシステムを用いて学生に周知することしかできず、時間を要した。</p>	日本大学（理工学部）
<p>土曜日の対面授業から、オンデマンド授業になったことから、履修者の激増につながった。学外での実習の受け入れ先不足になることが懸念される。</p>	日本大学（生物資源科学部）
<p>所属大学では、博物館学課程（博物館実習）担当教員が一部事務手続きも兼務しているため、上記については教員が代筆している部分もある。</p>	梅光学院大学
<ul style="list-style-type: none"> ・実習先への実習受入の可否についての確認（方法・タイミング等） ・学生への関係書類の受け渡し（キャンパス入構禁止期間中は、郵送でのやりとりとなるため滞在先の確認等が必要） ・オンライン配信とした実習関係情報の既読状況の確認 	佛教大学
<p>今年度は緊急事態宣言等によって、一定期間実習先の受け入れが出来なくなったということがあったため、予定していたカリキュラムを一通りこなすことについては苦慮しました。とはいえ、やむを得ない事態でしたので、改善等の意見・要求は特にございません。</p>	北海学園大学
<p>館園実習の申請手続き期間が在宅勤務期間と重なり、実習館・学生・課程事務と連絡を取り合うのに時間的にも物理的にも苦労しました。</p>	武蔵大学
<p>教育実習と異なり、途中で実習期間が短縮になった例は無かったが、実習期間の大幅な変更があり特に学事予定上の授業期間外（後期授業終了後）に実習期間が変更になり評価入点について現在検討中である。</p>	武蔵野美術大学
<p>実習への送り出し方針と受け入れ側の規定の相違やすり合わせ、予定していた対面授業が急遽中止となることによる代替措置の準備など</p>	明治大学
<p>実習をともなう授業について、感染状況を見ながらのスケジューリングは難しかった。</p>	
<p>附属博物館・美術館のない大学において、館園実習の受け入れが中止となった場合、学内での代替措置方法</p>	名城大学
<p>博物館の休館によって、日程の変更があった。</p>	目白大学
<p>実習時期の選定です。</p>	桃山学院大学

令和2年度 常任委員会・全国委員会

1. 常任委員会会議報告

常任委員会は、令和2年5月9日（土）11時に明治大学駿河台キャンパスで開催する予定であった。ところが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、全国委員会と全国大会の開催が難しい状況になり、4月3日から4月7日の間に常任委員大学の委員の方々とメールによる協議をおこなった。そこで、全国委員会は当面は延期（可能となれば年度内に開催する）として議事は書面審議すること、岡山理科大学で開催予定であった全国大会を次年度に延期し、総会は書面審議で実施する方針が立てられた。

*メール会議参加大学：國學院大學（青木豊・二葉俊弥）、法政大学（金山喜昭）、桜美林大学（浜田弘明）、東海大学（江水是仁）、目白大学（鈴木章生）、岡山理科大学（徳澤啓一）、明治大学（駒見和夫・井上由佳）

2. 全国委員会会議報告

全国委員会は、令和2年5月9日（土）・10日（日）に明治大学駿河台キャンパスで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため当面延期（可能となれば年度内に開催）することとし、令和元年度の事業・決算報告および令和2年度の事業・予算案の審議は書面で実施した。

書面審議は5月12日付の文書で依頼して、6月12日の18時を回答期限とした。その結果、審議事項はすべて了承され、6月18日付の文書で書面審議報告をおこなった。

全博協会報 58

発行日 2021年3月31日
発行者 全国大学博物館学講座協議会
委員長大学 明治大学
代表 駒見和夫
事務局 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学 資格課程事務室内
zenpakukyo@gmail.com
印刷所 (株)オフィスティースカイ
